

- 二 車體ハ無地漆塗、中張ハ革、天鵝絨、羅紗等ヲ用フヘキモノトス
  - 三 車體ニ同キ塗色ノ泥除ケヲ備フヘキモノトス
  - 四 車體ノ背面中央ニ方一寸ノ楷字ヲ以テ組名番號ヲ判明ニ記スヘキモノトス
  - 五 ゴム引又ハ桐油製ノ母衣及前掛ヲ備フヘキモノトス
  - 六 不潔ナラザル蒲團及膝掛ヲ備フヘキモノトス
  - 七 組名及車體ノ番號ヲ記シタル細長提灯ヲ備ヘ且蠟燭、摺附木ヲ用意スヘキモノトス
- 第十九條 輓子ハ左ノ資格ヲ有スル者ニ限ルヘシ
- 一 年齡滿十八年以上ニシテ身體強壯ナル者
  - 二 其土地ノ路程ヲ略知スル者
- 第二十條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強竊盜、強姦及幼者ヲ略取誘拐スル罪若クハ過失ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタル者ハ輓子タルヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ
- 第二十一條 輓子ハ左ノ制限ニ從ヒ地方毎ニ一定ノ服裝ヲ爲スヘシ
- 一 着服ハ法被、股引、但雨雪泥濘ノトキハ半股引ヲ用フルモ妨ケナシ
  - 二 冠リ物ハ帽子又ハ笠
  - 三 雨具ハゴム引又ハ桐油製

- 第二十二條 法被冠リ物雨具ニハ組合及鑑札ノ番號ヲ記スヘシ
- 第三章 輓子就業制限
- 第二十三條 輓子ハ鑑札及營業人力車取締規則並賃錢表ヲ所持シ警察官吏又ハ乘客ニ於テ見ンコトヲ求メタルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ
- 第二十四條 頰冠リ鉢巻其他不體裁ノ形裝ヲ爲スヘカラス
- 第二十五條 路上ニ彷徨シ又ハ佇立スヘカラス
- 第二十六條 乘客ノ承諾ヲ得ス途中ニ於テ他車ニ乗セ替ヘ又ハ又ニ駐車スヘカラス
- 第二十七條 駐車場ノ外人力車ヲ置クカヘラス但乘客用辨ノ爲メ往來ノ妨害ト爲ラサル場所ニ駐車スルハ妨ナシ
- 第二十八條 乘客ノ指定セサル宿泊店、飲食店及其他ノ場所ニ輓入ヘカラス
- 第二十九條 制止ヲ肯セスシテ出火場其他群集シタル場所ニ輓入ヘカラス
- 第三十條 行人ニ對シ言語動作ヲ以テ乘客ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲ爲スヘカラス
- 第三十一條 車ヲ並ヘ輓キ又ハ濫ニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス
- 第三十二條 人力車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ
- 一 車馬道ノ設ケアル場所ハ左側其設ナキ場所ハ中央ヲ通行スヘシ

二 車馬及歩行者ニ行逢フヘキハ左ニ避ケ軍隊並砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

三 實車ニ對シテ空車之ヲ避ケ阪路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

四 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ懸ケ聲ヲ爲シ前車ハ右ニ避ケ後車ハ左ヲ通過スヘシ

五 郵便用消防用ニ供スル車馬及灌水車又ハ葬送等ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

第三十三條 後來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スルトキハ徐行スヘシ且街角ヲ過クルトキハ右ハ大廻リヲ爲シ左ハ小廻リヲ爲スヘシ

第三十四條 二輛以上ヲ連繫シテ輓クヘカラス

第三十五條 夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第三十六條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第三十七條 乘客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之レアリタルトキハ直ニ還付スヘシ其主分明ナラサルトキハ速ニ最寄警察署分署又ハ巡查番所派出所ニ届出ヘシ

第四章 車賃

第三十八條 人力車ノ賃錢ハ組合ニ於テ之ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受ク可シ

第三十九條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乘客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第四十條 汽車停車場其他群集ノ場所ニ至ラントスルトキハ到着前其賃錢ヲ請求スルヲ得

第四十一條 乘客ニ於テ單ニ行先ヲ示シ其道筋ヲ定メサルトキハ最近ノ路程ニ依リ賃錢ヲ計算スヘシ

第五章 乘載制限

第四十二條 一人乗ニ二人、二人乗ニ三人以上ヲ乘載スヘカラス但十年未滿ノ者ハ二人ヲ一人ト見做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第四十三條 左ニ記載シタル者ハ人力車ニ乘載スヘカラス

一 六種傳染病、疥癬、癩病患者及乞食體ノ者

二 汚穢物其他車ヲ汚染シ又ハ惡臭ヲ留ムヘキ物品

三 車體外ニ張出スヘキ長大ノ物品

第六章 駐車場

第四十四條 駐車場ヲ分テ左ノ二種トス

一 公設駐車場(一般營業人ニ於テ駐車スヘキモノヲ云フ)

二 私設駐車場(一人又ハ數人ニテ設立シ其專用ニ屬スルモノヲ云フ)

第四十五條 公設駐車場ハ管轄廳ニ於テ之ヲ定メ標示スヘシ私設駐車場ヲ

設クル者ハ管轄廳ニ届出認可ヲ受クヘシ

第四十六條 客ノ乗用ニ應ジ難キ人力車ハ駐車場ニ置クヘカラス

第四十七條 公設駐車場ニ於テハ到着順ヲ以テ整列シ各車ノ間ニ距離ヲ取  
リ出車ニ妨ケナキヲ要ス

第四十八條 公設駐車場ニ在ル人力車ハ整列ノ順序若クハ闖取ヲ以テ出車  
スヘシ但客ノ特ニ指示シタル場合ハ此限ニアラス

第四十九條 客ヨリ求メアリタルトキハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘ  
カラス但暴行者及看護人ナキ瘋癲人ハ此限ニアラス

第五十條 私設駐車場ハ組合取締人ノ烙印ヲ受ケタル標識ヲ設クヘシ

第七章 營業組合

第五十一條 人力車營業者ハ管轄廳ニ於テ指定シタル區域ニ從ヒ組合ヲ設  
クヘシ

第五十二條 組合ニ入ラサル者ハ人力車營業ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條 組合ニハ取締人一人ヲ置クヘシ取締人ハ組合營業者中ヨリ公  
選シ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十四條 組合ニ於テハ其規約ヲ定メ管轄廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十五條 取締人ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

一 人力車營業ニ關スル諸規則命令ヲ營業者ニ通知スル事

二 私設駐車場ノ標識ニ烙印スル事

三 組合營業者ノ願届ニ加印シ意見アルモノハ其旨ヲ記シ添申スル事

四 營業者名簿ヲ製シ増減アル毎ニ之ヲ加除スル事

五 組合ニ關スル費用ヲ取立及之ヲ仕拂フ事

六 組合ニ關スル諸費ヲ決算シ之ヲ組合ニ報告スル事

七 取締人ノ選舉ニ關スル事務ヲ取扱フ事

右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第五十六條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其費額及割賦方ハ規  
約ヲ以テ定ムルモノトス

第五十七條 左ノ資格ニ適合スル者ニアラサレハ取締人タルコトヲ得ス

一 年齢二十五年以上ニシテ組合區域内ニ相當ノ家屋若クハ土地ヲ所有  
スル者

二 組合營業者ニシテ人力車十輛以上ヲ所有スル者

三 營業上ニ關スル諸規則類ヲ解讀シ算筆ニ通スル者

第五十八條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強竊盜詐偽取財ノ罪ヲ犯シタル者  
ハ取締人タルコトヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ

第五十九條 管轄廳ニ於テ取締人ニ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ任期  
中ト雖モ臨時改選セシムルコトアルヘシ

宿屋取締規則標準

第一章 通則

- 第一條 宿屋ヲ分テ旅人宿下宿屋木賃宿ノ三種トス
- 第二條 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ其種類ヲ記シ營業用ニ供スル建物坪數及間取ヲ記シタル明細圖面ヲ以テ管轄廳ニ願出テ允許ヲ請フヘシ其間坪取數ヲ變更増減シタルトキハ圖面ヲ以テ届出認可ヲ受ク可シ
- 第三條 左ノ各項ニ觸ル者ハ允許ヲ與ヘス
  - 一 末丁年者ニシテ後見人ナキ者
  - 二 白痴瘋癲者
  - 三 強竊盜及詐僞取財ノ罪ヲ犯シタル者又ハ其他ノ罪ヲ犯シ監視中ノ者
  - 四 風俗ヲ紊ルヘキ所爲アリト認メタル者
- 第四條 改氏名又ハ廢業シタルトキハ其旨管轄廳ニ届出ヘシ
- 第五條 宿屋營業者ハ看板ヲ店頭ニ掲ケ旅人宿木賃宿ハ夜中標燈ヲ以テ之ニ代フヘシ
- 第六條 宿引ヲ出シ客ヲ誘引スヘカラス
- 第七條 宿泊人ノ所有品ハ特ニ其寄託ヲ受ケサルモ紛失セサル様注意スヘシ
- 第八條 宿泊人ノ承諾ナクシテ來訪者其他ノ者ヲ濫ニ其室内ニ入ラシムヘシ

カラス

- 第九條 宿泊人疾病ニ罹ルトキハ醫藥食物等其求メニ應シ特ニ懇切ニ取扱フヘシ
  - 第十條 宿泊人變死ニ係リ又ハ其所有品紛失シタルトキハ即時所轄警察署分署又ハ巡查番所派出所若クハ巡行ノ巡查ニ届出ヘシ
  - 第十一條 宿泊料ノ低價トシテ私擅ニ宿泊人ノ所有品ヲ押收又ハ受領スヘカラス
  - 第十二條 宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又ハ宿泊料外ノ金錢ヲ得ル目的ヲ以テ客ノ求メナキ飲食物ヲ供スヘカラス
  - 第十三條 宿泊料其他宿泊人ニ關スル緊要ノ事項ハ帳場及客室ニ揭示スヘシ
- 第二章 旅人宿
- 第十四條 旅人宿ハ客室二十五坪以上アル家屋ニ於テ營業スル者ニ限ルヘシ
  - 第十五條 客室ハ充分ニ光線ヲ取り且空氣ヲ流通セシムヘシ
  - 第十六條 客室毎ニ堅固ナル錠前附ノ押入又ハ戸柵ヲ設クヘシ
  - 第十七條 二階以上ノ客室十五坪以上アルモノハ階子二箇以上ヲ設クヘシ但階子ノ幅ハ四尺以上タルヘシ

第十八條 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル所ニ設ケ尿管ヲ受容スヘキ部分ハ

石、敲キ陶器等ヲ以テ構造スヘシ

但構結上特ニ認可ヲ得タルモノハ此限ニアラス

第十九條 便所ハ日々清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ

第二十條 客室ハ旅客一名ニ付一坪半ヲ下ルヘカラス

但同行者ハ此限ニアラス

第二十一條 客室ノ番號並定員ハ客室ノ出入口ニ揭示スヘシ

第二十二條 正當ノ理由ナクシテ旅人ノ宿泊ヲ拒絕スヘカラス

第二十三條 營業者ハ左ノ書式ニ從ヒ宿泊人名簿ヲ調製シ宿泊人發着毎ニ

原簿ニ記入シ且甲乙書式ニ從ヒ所轄警察署又ハ分署ヘ届出スヘシ

(書式略之)

第三章 下宿屋

第二十四條 下宿屋トハ一箇月ノ賭料、座敷料等ヲ約定シテ寄寓セシムル

モノヲ云フ

第二十五條 下宿屋ハ客室十坪以上アル家屋ニ於テ營業スルモノニ限ルヘ

シ

第二十六條 下宿屋營業者ハ下宿人投宿後二十四時間内ニ其下宿人ト連署

ノ上、下宿人ノ族籍住所氏名年齢並ニ下宿ノ事由ヲ記シタル願書ニ通テ

所轄警察署又ハ分署ニ差出シ一通ニ其檢印ヲ受ケ所持スヘシ

第二十七條 第十六條第十七條第十八條第十九條ハ下宿屋ニ付テモ亦之ヲ

適用ス

第二十八條 下宿人ノ族籍氏名ヲ記シタル木札ヲ店頭又ハ門戸ニ掲出スヘ

シ

第二十九條 下宿人他ヘ轉宿シ又ハ五日以上外泊シテ其所在ノ不分明ナル

トキハ其旨所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第四章 木賃宿

第三十條 木賃宿營業ハ場所ヲ定メ許可スヘキモノトス

第三十一條 宿泊人滞在中外泊シタルトキハ其旨ヲ帳簿ニ記シ置クヘシ

第三十二條 宿泊人届出方ハ第二十三條ノ例ニ從フヘシ

○諸營業取締規則ノ件 明治十五年十一月 内務省番外

府 縣 東京府

縣 除ク

諸營業取締規則ノ義ニ付今般別紙警視廳伺ニ對シ朱書ノ通及指令候條爲心

得此旨相達候事

但從前ノ指令等右ニ抵觸スル分ハ消滅候義ト心得ヘシ

(別紙)

營業規則特ニ委任サレサル罰則刪除ノ義ニ付伺

營業取締規則上特ニ委任サレサル罰則ヲ設クル義不相成旨過般御訓示相成候處當應ニ於テ從來施行スル營業規則中營業禁停ノ目有之右ハ御訓示ノ旨ニ抵觸致シ候哉ノ疑議モ有之左ニ相伺候

抑々警察上ニ於テ取締ヲ要スル營業ノ儀ハ一般ノ秩序安寧ヲ保持スルカ爲メ常ニ照顧裁制セサルヲ得サルモノニ有之故ニ其業体ニ依リ本人ノ身行資格等ヲ以テ許否ノ取捨ヲ爲サ、ルヲ得ス例セハ演劇ノ風俗ヲ紊リ若クハ世安ニ害アル者或ハ技術ノ未熟ナルヲ以テ屢々人ヲ危險ニ陥ル者<sup>馬車取</sup>雇人受宿ニシテ畧取誘拐ノ罪ヲ犯スモノ古衣古道具商ニシテ常ニ不正品ヲ故買スルモノ其類一ニシテ不足此ノ如キハ初ヨリ許可スヘカラサルアリ又ハ許可ノ後之ニ觸ル、以テ停禁スヘキアリ皆此レ行政上ノ處分ニシテ司法罰則ト同視スヘカラス且夫レ既ニ規則ヲ施行シ其營業ヲ許可スルノ權有之上ハ又之ヲ停禁スルヲ得ルハ自然附隨スル所ニシテ固ヨリ許否ノ二權ハ相離ル可カラサル者ナレハ則チ其初メニ於テ許可ヲ與ヘサルモ後ニ停禁スルモ同一事ニシテ其前後ヲ以テ區別ヲ生スルノ理由モ有之間敷旁營業停禁ノ儀ハ御訓示ノ旨ニハ抵觸不致事ト相心得從來慣行ノ通取扱可然哉爲念此段相伺候也

警視總監樺山資紀代理

明治十五年三月廿四日

警視副總監綿貫吉直

内務卿山田顯義殿

(朱書)

書面伺之通

明治十五年十一月廿九日

内務卿山田顯義

○富

富興行禁止 明治元年十二月廿三日 布告

富興行ノ儀ハ兼テ御禁制ニ有之處近年諸國ニ於テ金錢融通ヲ名トシ或ハ社寺再建等ニ托シ興行致候向モ有之趣元來澆季之弊風僥倖ノ利ヲ以テ民心ヲ誘惑スルヨリ自然農工商共其職業ヲ惰リ往々之カ爲ニ家産ヲ破候者モ不少哉ニ相聞ヘ以テノ外ノ事ニ候斯御一新ノ折柄右様ノ所業殊ニ御趣旨ニ相戻候儀ニ付更ニ嚴禁被仰出候事

富籤賣買者等處分方 明治十五年五月 第廿五號布告

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保幫助ヲ爲シ及富籤ヲ購買シタル者處分方左ノ通制定ス

第一條 凡富籤賣買ノ牙保若クハ幫助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ

重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトテ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及他ヨリ譲リ受ケタル者亦同シ

第三條 第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルコトヲ得ス

第四條 富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條 富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス

再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス

第六條 富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

右奉 勅旨布告候事

○遺失埋藏物

○遺失物取扱規則 明治九年四月 第五十六號布告

遺失物取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事

遺失物取扱規則

第一條 凡遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルコトヲ覺ラズ及ヒ其所在ノ明カナラサルモノヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨ンテ物主其場ニ就テ主タルコトヲ証明スルニ於テハ直ニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論スルコトヲ得ス

第二條 凡遺失ノ物ヲ得レハ五日內ニ其主ニ還シ其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ一年內其主ナキトキハ之ヲ得者ニ給ス

第三條 凡遺失物ハ其遺失スル物品ノ模樣員數並ニ遺失ノ日時場所等ヲ可成丈詳細ニ記載シ速カニ官ニ届出ヘシ但得者ヨリ其返還ヲ得ルトキモ亦更ニ其旨ヲ届出ヘシ

第四條 凡遺失ノ物ヲ得レハ之ヲ其主ニ還スト雖モ其費用ヲ償ハシムルコトヲ得且得者ニ報勞ノ爲メ其物價百分ノ五ヨリ少カラス廿ヨリ多カラサル金圓ヲ給スヘシ若シ物主得者ト其價格ヲ爭フトキハ官之ヲ評價人ニ托シ其價ヲ定ム

第五條 凡遺失物ヲ得ルニ物品盜贓ニ係ルモノハ直チニ官ニ送ル可シ官之ヲ其主ニ還シ止メ其費用ノミヲ償ハシム

第六條 官私ノ地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得ルモノハ之ヲ官ニ送ルヘシ其主分明ナラサル者ハ地主ノ所有ニ歸スヘシ若シ借地人其借地ヨリ掘得タ

第二條 (明治二十年二月) 刀劍類及劇毒藥ノ遺失ニ係リタルモノノ遺失者分明ナラサレハ其遺失ノ日時場所等ヲ詳細ニ記載シ速カニ官ニ届出ヘシ但得者ヨリ其返還ヲ得ルトキモ亦更ニ其旨ヲ届出ヘシ

ノ其物品ヲ拾得又  
ハ他人拾得テ之ヲ  
届出タル場合ニ於  
テハ司法警察官ハ  
本犯誰ナルヲ知ル  
ニ由テ之ヲ到底解  
ノ目録ニモ結シテ  
渡テ爲スモ結局申  
主ノ迷惑ナルハシ  
ト思料スルカ又ハ  
物品ノ認ルハシ  
ル者ト認ムルハ  
其物品ノ認及價  
品類等詳細登録シ  
店等ノ他日ノ證  
據ト爲シ物格  
直ニ事主ヘ下渡ス  
ヘシ

ルトキハ之レヲ地主ト中分セシム(明治十四年第二號布告ヲ以テ本項共改正)  
但盜賊ニ係ルモノハ此限ニアラス

第七條 凡ソ遺失物ヲ得ルニ若シ其物耐久シ難クシテ其主分明ナラサルト  
キハ迅速ニ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ公賣シ其代價ヲ領置シ榜示シテ處分  
スルコト第二條ノ如シ

第八條 凡ソ家畜ノ類他所ニ逃走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ得スト  
雖モ其主ヨリ之ヲ官ニ報シ及得者ニ其費用ト報勞金ヲ給與スルコト第三條

第四條ニ同シ若シ他人ノ財産ヲ毀損スルキハ律ニ照ラシテ處分ス

第九條 凡ソ逃走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラサレハ之レヲ官ニ送ル  
ヘシ若シ八日內其主ナケレハ官之ヲ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償ヒ仍ホ代

金ノ剩餘アルモノハ之ヲ官ニ領置シ榜示シテ處分スルコト第二條ノ如シ

第十條 凡ソ遺失物及逃走畜類ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ得者ニ其費用ト報  
勞金ヲ給スルコト私物ニ異ナルコトナシ

第十一條 凡ソ警察官吏タル者ハ所部ノ内外ヲ問ハス遺失物ヲ得レハ速カ  
ニ之ヲ官ニ送り至ク其主ニ還附シ其主ナケレハ之レヲ官ニ沒ス

第十二條 凡ソ一切應禁ノ物ヲ得レハ遺失及ヒ埋藏ヲ論セス並ニ官ニ沒ス

第十三條 凡ソ公私債証書地券諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スルヲ得ス  
ト雖モ物主ハ得者ニ其費用ヲ償フヘシ

第十四條 凡ソ遺失物及ヒ逃走畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ掘得テ官私ニ全ク  
送還セス或ハ物主ノ其主タルコトヲ証明スルニ冒認シテ返還セサル者ハ並  
ニ律ニ照ラシテ處分ス

○遺失物中官沒物品取扱方明治九年十二月  
内務省乙第百三拾六號達

府縣東京府  
ヲ除ク

本年入當省乙第九十七號官沒之物品取扱方左ノ通改正候條此旨相達候事

遺失物取扱規則中官ニ沒スル物品之中裁判ニ係ルモノハ裁判所ニ送附シ裁  
判ヲ係ラサルモノハ之ヲ公賣シ其應禁物ハ一旦廢毀スルノ後ハ之ヲ公賣ス  
ルモ害ナキモノハ同様處分シ其金額毎六ヶ月分七月ヨリ十二月迄  
一月ヨリ六月迄取纏メ明細書  
相添大藏省ヘ納附可致事  
但本文ノ通納附候ハ、其段當省ヘ可届出事

○官沒ニ係ル遺失物公賣金納付方明治十五年十二月  
内務省乙第七十號  
達

府縣東京府  
ヲ除ク

明治九年十一月當省乙第百二十六號達中金額納付方ノ義自今本年大藏省第二  
十一號達雜收入金上納順序ニ準據シ納付可致此旨相達候事



○同上公賣金額届出方 明治十六年四月  
内務省乙第拾三號達

遺失物等公賣ニ係ル金額届出方之義自今一週年分取纏メ明細書相添ヘ毎年八月三十一日限り届出ヘシ此旨相達候事

府縣 東京府  
ヲ除ク

○埋藏物中古代ノ品物處分 明治十年九月  
内務省甲第二十號達

明治九年四月太政官第五十六號ヲ以テ遺失物取扱規則中第六條埋藏物掘得ル者處分ノ儀公布相成候處右物品ノ中チ古代ノ沿革ヲ徵スルモノモ有之候ニ付處分前一應當省ヘ届出檢査ヲ可受其品ニヨリ相當代價ヲ以テ購求シ官私中分ニ係ルモノハ其價格ノ半高ヲ發掘又ハ下付シ該物品ハ永ク博物館ヘ陳列可致候條此旨相達候事

但シ物品ハ先ツ掘出地名及ヒ形狀等ヲ詳記シ及ヒ摸寫スルモノヲ郵送シ其見込ミアルモノニテ遞送方相達候後チ本文ノ通可取計候事

○明治十九年十月宮内省達第十三號

北海道廳 府縣

○難破船漂流物

○不開港場規則難船救助心得方 明治二年二月  
布告

不開港場規則難船救助心得方等之條目別紙雕刻ノ通被仰出候間此旨相達候事

(別紙)

外國貿易ノ儀ハ神奈川港ヲ始メ大坂兵庫長崎新潟箱館六ヶ所御取開相成候上ハ諸商賣トモ右場所ニ於テ取引可致處不開港場ニ於テ密商イタシ候哉ノ趣相聞ヘ以之外ノ事ニ候右ニ付テハ先達テ御布令之趣モ有之御條約面ニモ明細ニ掲載致シ有之儀ニ付キ向々ニ於テ厚ク可相心得筋ニハ候得共津々浦々邊鄙ノ場所ニ至候テハ取計方不相辨モノモ可有之或ハ難船救助ノ筋ト入混シ難船人ヘ對シ不親切ノ取扱ヒイタシ候テハ御交際上ニ差響キ候儀ニ付キ夫是以テ今般猶又廉々別紙ノ通心得方被仰出候依テハ府藩縣ニ於テ取締不行届其土民共外國人ヲ引入レ内密ニ賣買致シ候節ハ假令其事不仕遂候共當人並ニ其支配シタル者マテ急度御咎可被仰出候尤モ吟味ノ上其土地管領ノモノ同意致シ居候歟又タハ心得ナカラ見遁シ候儀相知レ候節ハ猶更嚴重御處分可有之候ニ付向々ニ於テ取締ノ儀猶一層行届候様可致候事

一外國人之儀ハ自己相對ヲ以テ雇入候儀不相成趣者兼テ御布令ノ通ニ候得共諸學科又ハ國地開發或ハ西洋形ノ船々運用筋ニ付相雇度モノハ其次第

ニ依リ御聞届可相成候間給料年限等取極其筋々ヨリ書面ヲ以テ東京外務省へ可願出其上御印章御渡可相成候尤モ御印章所持ノ外國人ハ何レノ向ニテモ御國人同様相心得無隔意接待致シ無差支通行セシムヘク候尤モ諸場所ニテ右御印章相改メ可申萬一御印章所持不致外國人有之節ハ御許容不相願私ニ雇入候筋ニ付内地通行不相成儀ハ勿論窮ニ隠レ置キ相顯ル、於テハ急度御沙汰ノ品モ可有之間心得違無之様可致事

午正月

太 政 官

退テ別紙條目ノ儀ハ外務省ニ摺モノ有之候間不足ノ向ハ何分ニ而モ同省へ申立可受取事

條目

不開港場取締心得方規則

一何レノ濱邊又者港浦オイテ西洋形之船入津候ハ、時刻ヲ移サス直様湊役人役人不居合場所ハ村長ノ内ヨリ可罷出事其船へ乗組入津之趣意可相尋候事  
但言語不通ニ而十分難相分儀モ可有之候得共初テ來ル外國船ハ故ナク入津イタシ候儀甚少ク候間其文意丈ケ和語手眞似ニテ相分可申候事  
一尋問ノ上薪水食料ニ盡キ其品々ヲ求メ候タメ入津之儀ニ候ハ、其土地ヨリ横濱兵庫長崎新潟函館迄之里數ヲ勘辨イタシ格別遠路ニモ無之候ハ、右品々タリトモ前文開港場之内へ參リ可受取旨申サトシ渡方ヲ斷リ可申

或ハ右開港場へ七八十里又ハ百里モ遠キ場所ニ候ハ、無餘儀事ニ付其土地支配ニテ承届候上右里數ヲ計リ船中人數相當之分丈渡遣シ代金可受取事

但シ金高品數ハ勿論船碇泊之日數刻限等委細相ヒ認メ届出可申事

一其船之國名船名船主ノ名書付ニテ承リ糺スヘキ事

但船名者多ク船之艦ニ横文字ノ摺書ニテ認メ有之モノニ付右字樣寫取置ヘキ事

一船ニ引上ケ有之國旗並ニ船主之旗等總テ目印ニ可相成モノハ其雛形寫取可差出事

一闕乏之品相渡候上出帆遲々致候様子ニ候ハ、早々出帆候様催促可致事

一御免許之上海岸測量ノ爲メ船ヲヨセ候節ハ相當ニ世話イタシ岩石隠レ洲有之場等差示可遣尤モ御免許之船ハ其印狀必ス所持イタシ居候事

一軍艦ニ候ヤ商船ニ候ヤ蒸氣船風帆船共總而船形大小トモ取糺相届可申事

一軍艦ニ候ハ、大砲之備有之商船トハ船形相違ニ付假令見ナレサルモノニ而モ相知レ可申軍艦ハ別而何事モ禮儀ヲ正シ不敬之取扱イタサル様可心掛候事

一薪水食料等船中必用品之外餘分ハ勿論其外土地產物類相求度旨申立候トモ一切賣渡候事不相成萬一利慾ニ迷ヒ賣渡候者有之後日相顯ハル、ニ

於テハ吟味之上屹度御咎可有之事

一船中ニ積載有之品々彼方ヨリ賣渡度段申立候トモ買求候儀一切不相成萬  
一窃ニ取引イタシ候節ハ前同斷御咎有之事

一濱邊ニ近キ村里之モノ共其濱邊之モノ共内々外國人ト荷物ヲ取引致シ候  
様子ニ候ハ、其支配カ又者開港場へ可申立時宜ニヨリ御實可有之事

一難船ニ無之食料闕乏等ニ托シ密商仕向候節ハ定而其土地ニモ右ヲ呼迎候  
者可有之速ニ探索之上彌密商イタシ候ニ相違無之候ハ、双方トモ差シ押

外國人者引留置御國人ハ入穿手鎖等其土地相當之仕置ニイタシ早々申立  
差圖可受尤モ横文字之書付類後日之証據ニ可相成品ハ始末イタシ可置事

但シ各國御條約書ニ何レモ外國人共日本不開港場等へ參リ密商シ或ハ  
密商チ企ントイタシ候者ハ其犯セル度毎ニ其品取上ケ爲過料メキシコ

トルラルニテ千枚ニ當候程御取立相成候間御國人ニ於テモ右同様之企  
致シ候モノ於有之者兼而御犯告之通其品取上過料トシテ金千兩御取上

之事  
一御國人買求候西洋形商船ニ外國人乘組居萬一商買取引等致シ度段申立候  
欺或ハ其乘組御國人手引ニテ商買致シ候様ニ相見候ハ、爲ト様子ヲ探索

致シ嚴數拒絕可致万一仕遂候跡ニ候ハ、其事實穿鑿之上早々其筋へ可申  
立事

但シ本文西洋形商船ニ不限御國通例之地乘船ニ而西洋人乘組居節モ同  
様之事

一外國船ヲ御國人トモ借り受開港場ヨリ開港場へ荷物運輸之儀ハ願之上御  
開届可相成節ニ候得共不開港場へハ決而御開届無之儀ニ付萬一不良ノ徒  
村民ヲ欺キ御免許受候ニ付賣買致シ度杯ト申唱へ候トモ一切差許申問數  
事

但シ地方饑饉等ニテ不得止事外國船舶雇不開港場へ相廻候事御免許無  
之筋ニモ無之其筋ハ府藩縣之知事ヨリ其沙汰可有之且乘組人之内開港  
場之役人爲取締之立會候等ニ付事實突留候上其取扱ニ可及事

一湊へ碇泊イタサス冲撃リ又ハ其近海ニ於テ双方ノ船出會致密商候様子ニ  
候ハ、是又早々穿鑿可致事

一不開港場へ外國船碇泊イタシ薪水食料而已賣渡候儀ニテ聊カ心障リノ事  
無之トモ其都度相届可申事

難船救助ノ事

一難船ニテ困苦ノ体ニ相違無之節ハ其困苦ノ輕重ニ從ヒ相當ニ扶助イタシ  
可遣事

但シ船ニ乘組居リカマキ程ニ候ハ、其海岸最寄寺院也民家也可然場へ  
止宿爲致食料衣服等迄仕賄可遣事

- 一 船ノ修復ニ取掛リ候ハ、鍛冶大工職其他人夫ハ勿論器材迄用意致シ可遺事
- 一 乗組人ノ内溺死ノ尸有之歟或者滯留中病死之者埋葬之儀申立候ハ、墓所内都合好キ場所へ埋葬可爲致事
- 一 洋中ニチイテ大船破碎シ乗組外國人之内猶船具等ニ取付生残り居候体見當候ハ、早々我船へ助ケ載開港場へ送届候歟又者其土地支配之者受取海陸便宜ヲ見計ラヒ開港場へ可差送事
- 一 難船者漂着候ハ、早々外務省歟又者開港場之内可成里數近キ所へ晝夜ニ不限注進ニ及其掛リ官員ノ出張ヲ申立差圖可受事
- 一 難破イタル船難用立陸路ヨリ開港場へ罷越度段外國人ヨリ願出候ハ、承届附添之者可成餘計ニサシ出最寄ノ開港場へ可送届事
- 一 困難ノ船隠レ淵等ニ乗懸ケ難引出其儘船主引拂候節ハ右船津又ハ鐵具碇鎖等迄沈没之マ、追々流失候トモ又村方ニ而取捨候トモ向後異存ナキ旨外國人ヨリ横文ノ書面取置クヘキ事
- 一 難波船津其マ、差置キ外國人ハ一日引拂退々右船引出レ方トシテ再可差越候ニ付其間船其外之ヒノトモ預リ置キケレ候様外國人ヨリ相頼候トモ容易ニ引受申問敷彼方ヨリ遮而申立候ハ、其筋へ伺之上可引受勿論入費可相掛儀ニ付右賃銀受取候儀ハ不及申跡々ニテ異論不差起様何事ニモ書

面可取置事

- 一 沿海地方ニ於テ外國船困難之節救助方ニ付出費ノ儀ハ總テ其船主ニ屬シ相當ニ候得共船主ニ屬スヘカラサル部分於有之ハ内譯精細區分致シ其他管轄ノ府縣廳ヨリ官費ヲ以テ仕拂候事ト相心得船主へ談判致シ船主ヨリ相當償却高ノ外猶不足之殘額ハ内譯精細書相添へ管轄府縣ヨリ大藏省へ申出處分ヲ可受申或ハ船主ノ自費ト地方廳ノ官費ト區別判然致サ、ル部分ハ暫ク官費ヲ以テ操替置キ船主滯留中ナラハ其趣船主へ心得置セ若シ船主其他乗組ノ者既ニ困難場引拂後ナルキハ先以テ最寄開港場ノ府縣長官へ照會シ同所長官ヨリ其旨船主又ハ船主管轄ノ領事へ申入置セ而後右區分ノ見込外務省へ申出何分ノ指揮ヲ可受若シ船主ヨリ受取ルヘキ分本人持合セ無之候ハ、証書取置是又前文同様開港場ノ府縣長官へ可相廻事(明治八年第七十號 布告ヲ以テ改正)
- 一 難船之船具又ハ沙滯之荷物或ハ船津等賣拂度旨外國人ヨリ申立候ハ、右ハ相當ノ價ヲ以テ買求メ候儀不苦尤モ其段可相届事
- 一 難船ニテ永々滯留可相成様ニ候ハ、府藩縣トモ其筋ヨリ警衛之モノ可差出事
- 一 乗組人無之西洋之難破船海岸へ漂着候ハ、其様子委細ニ可届出事
- 一 總而外國人ニ取引イタル候勘定書或ハ證書之類ニ至ル迄和文ニ而者難用

立候ニ付彼國之文學ニ而爲候認置キ判又ハ調印爲致置クヘシ和文ニ而者後日之證ニ難相成候此方ヨリ可差出證文等有之候ハ、和文ニ相認メ右者調印イタシ可差出彼方ヨリ望候トモ意味不相知西洋文相調印ハ勿論名面認載候儀不相成被欺候儀有之候トモ後ニ其詮無之事ト可相心得事

一右條目ニ有之伺出候儀又ハ届書トモ其場所ヨリ最近キ開港場歟又ハ東京外務省へ差出候事ト可相心得勿論事柄永引キ手輕ニ不相濟儀ハ開港場へ相届候上猶又外務省へ可申立事

右之通

午 正月

○内國船難破及漂流物取扱規則 明治八年四月 第六十六號布告

内國船難破及漂流物取扱規則別冊ノ通相定候條本年六月一日ヨリ施行可致此旨布告候事

但本年同日ヨリ浦高札ハ廢シ候事 (別冊)

内國船難破及漂流物取扱規則

第一條 諸通船海上又ハ川筋ニ於テ難破沈没其他ノ災厄ニ逢ヒ候節救助心得方及ヒ之ニ屬スル諸費用ノ立方ハ總テ左ノ箇條ニ從テ取扱フヘシ

第二條 各地浦方ニ於テ難破救助ノ爲メ其管屬ヨリ區戸長其他用掛リ等ノ内ヲ以テ適宜ニ浦役人ヲ申付置クヘシ

第三條 諸通船難風ノ爲ニ困難シ又ハ其他災厄ニ罹リ候節ハ最寄ノ者見附次第直チニ浦役人ニ報知シ且浦役人ヨリ指圖無之ニ速カニ助船ヲ出シ救助方精々盡力致スヘシ

但救助ノ者困難船ニ漕寄セ候節船長其他重立タル者ヨリ頼談無之内ハ猥リニ船中ノ物品ヲ積ミ移ス可カラス

第四條 浦役人ハ難船ヲ見附或ハ其報知ヲ得ルキハ速ニ其乗組人及ヒ船體積荷ヲ救助保安スルノ手立ヲ盡ス可シ若シ多人數ヲ要スル程ノ大難船ト見受候節ハ板木半鐘等打鳴ラシ人數呼聚メ且近隣ノ船持ニ申付助船ヲ出ラシム可シ

第五條 少人數ニテ救助シ得ヘキ時ハ勿論前條ノ如ク多人數ヲ要スル程ノ大難船ノ節モ浦役人ニ於テ諸事取締ヲ付ケ成丈失費掛ラサル様篤ク注意致シ救助方行届候ハ、早速人數ヲ退散セシム可シ

第六條 保安シタル船具其他ノ物品ハ最安全ニシテ且便利ノ場所ニ之ヲ置クヘシ尤小屋掛ケヲ要シ番人ヲ差置クヘキ程ノ場合ニ於テハ夫々其手數ヲナシ諸事懇切ノ取扱ヲ致スヘシ

第七條 難破ニ逢ヒタル船長又ハ乗組ノ者ハ上陸次第直チニ電信郵便其他

ノ急報ヲ以テ之ヲ船主又ハ荷主ニ報知スヘシ

第八條 難船物ヲ保安スル者ヘハ左ノ割合ヲ以テ保安料ヲ遣ス可シ

第一 海面ニ漂流スル物品ハ其廿分一

第二 海中ニ沈没スル物品ハ其十分一

第三 川面ニ漂流スル物品ハ其卅分一

第四 川底ニ沈没スル物品ハ其十五分一

但其所持主ノ都合ニ因リ代價又ハ現物ニテモ妨ケナシ

第九條 浦役人ハ救助ノ爲メ集マリタル人数及ヒ救助ノ爲ニ出シタル小舟現ハ難船物ヲ保安シ及ヒ是ニ就テ盡力シタル証跡顯然タラサルニ於テハ保安料及ヒ其他ノ賃錢等ヲ割渡ス可カラズ

第十條 保安シタル物品又ハ船洋等ノ餘殘物又ハ汐入水溜シ等ノ爲メニ腐敗スヘキ恐レアルモノハ一名以上ノ浦役人及ヒ船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上其所ニ於テ之ヲ入札拂ヒニ爲スヲ得ヘシ

但本條ノ場合ニ於テハ浦役人ニテ成ルヘク丈々最寄ヘ廣告シ公ケノ場所ニ於テ入札人其他衆人ノ眼前ニテ之ヲ爲シ且其物品ノ目錄及ヒ出入ノ証書並ニ其附直段ノ第三番迄ヲ取置クヘシ

第十一條 保安物ヲ賣拂ヒタルキハ其代價金高ノ内ヲ以テ左ニ掲載シタル諸費用ヲ其船主荷主ヨリ出サシムヘシ

第一 保安料

第二 救助ノ節働人足賃及ヒ小舟賃

第三 保安物ノ爲メニ取設タル小屋掛ケ入費及番人ノ賃錢

第四 乗組ノ者怪我人有之節其療養入費

第五 同前ノ者溺死スルキハ其搜索入費

第六 同前ノ溺死ノ節埋葬入費

若シ物品賣拂金高諸費ノ高ヨリ少ナキキハ其金高限リ出サシメ不足ノ分及ヒ賣拂フヘキモノモ之レナキキ第十五條ニ照準シテ處置スヘシ

第十二條 左ニ掲載シタル諸入費ハ之ヲ三分シ其二分ハ船主荷主ヨリ出サシメ其一分ハ之ヲ其管内民費トナス可シ

第一 難船取扱中浦役人ノ日給

第二 浦方ニ於テ難破ノ爲メニ費シタル薪炭蠟燭及ヒ筆紙墨代

第三 浦方ヨリ管轄其外等ヘ發シタル電信郵便及ヒ飛脚賃

第四 救助人溺死シタル時其搜索入費

第五 同前ノ者死傷スルキ治療埋葬入費

第十三條 難破ノ節浦方ヨリ乗組人ニ給セシ衣服食物其他ノ必要品代料又ハ歸郷旅費等ヲ貸遣シタル時ハ証書取置キ第十九條ノ通り精算書中ニ記載シ退テ本人ヨリ償却セシムヘシ

第十四條 大難船ノ節諸費用割賦ノ義ハ(船体皆破沈没乗組人ノ死去及ヒ積荷ノ大損害ヲ生シ荷主船主立會決算ヲ要スル等ノモ)現場ノ救助方ヲ除クノ外各般ノ處置ハ其管廳ニ申立テ其筋出張官員ノ差圖ヲ受クヘシ尤モ小難船ノ處置ハ二名以上ノ浦役人及船長其他重立乗組ノ者二名以上合議ノ上之ヲ決スルコトヲ得ヘシ

第十五條 船體積荷ヲ併セテ悉皆沈没ニ至ルノ大難船ハ浦方ニ於テ其救助ノ爲メニ許多ノ雜費相掛リ候トモ船主荷主ヨリ之ヲ取立ルヲ得ス故ニ其差出スヘキ費用ノ分ハ官費ヲ以テ支給スヘキニ付費用明細帳ヲ作り浦役人船長連署押印シ管廳ヘ差出スヘシ

第十六條 危難ヲ冒シテ乗組人ノ必死ヲ救フ者又ハ救助ノタメ盡力シテ死傷ニ至ル者アルトキハ必ス官廳ヘ届出ヘシ其事實ノ輕重ニヨリ相當ノ賞譽或ハ手當金ヲ給スヘシ

第十七條 總テ浦役人及船長合議ノ上處置シタル時ハ其事柄ヲ詳細ニ記シタル證書ニ通テ作り之ニ連署押印シ其一通ヲ船長ヘ渡シ他ノ一通ヲ浦役人ニテ保テ置クヘシ

第十八條 二名以上浦役人合議ノ時ハ其内一名ハ必ス他村ヨリ出スヘシ  
第十九條 難船救助ニ屬スル諸費用ハ二名ノ浦役人及船長其他重立乗組ノ者二名以上立會ノ上第十一條第十二條第十三條第十五條ニ照シテ夫々其費用ノ種類ヲ區別シ成ヘク速カニ精算書ヲ作り之ヲ難破明細書ヲ添テ

管廳ニ差出シ其檢査ヲ受ク可シ

但精算取調ノ節ハ成丈ケ船主又ハ荷主ノ立會ヲ要ス可シ

第二十條 前條ノ精算書ハ管廳ニ於テ速ニ調査ヲ遂ケ不審ノ處無之キハ早速下ケ渡スヘシ然ル上浦役人ハ第十五條ニ記スル場合ヲ除クノ外船主荷主或ハ船長ヨリ夫々出金致サスヘシ若シ其即時弁金相成難キ分ハ相當ノ日數ヲ猶豫スヘシ

但シ民費ノ分ハ其管廳ヨリ取立浦役人ヘ下渡スヘシ

第二十一條 洋中ニ於テ難破或ハ打荷等有之趣ヲ以テ浦証文ヲ願出ル時ハ二名以上ノ浦役人立會ノ上船長及ヒ乗組ノ者二名以上ヲ別々ニ取調ヘ其實跡アルカ又ハ航海日記アル者ハ之レニ照シ各々符合スル時ハ浦証文ヲ作り連署調印シテ之ヲ船長ニ付與シ寫ヲ以テ管廳ニ届出ヘシ

但浦証文中左ノ箇條ヲ載スヘシ

- 第一 難破ニ逢タル場所其時日及ヒ風波ノ模様
- 第二 破損ノ箇所
- 第三 打荷ノ種類箇數並他ノ積荷ノ種類
- 第四 船号及ヒ免狀ノ番号並船主船長ノ本貫苗字名乗組人數
- 第五 荷打シタル荷物主ノ苗字名本貫
- 第六 仕出シ地及ヒ仕向ケ地ノ港名

第七 乗組ノ内死傷有之キハ其貫本苗字名年齢

第二十二條 軍艦其他ノ官有船困難候節ハ早速助船ヲ出シ精々盡カシテ救助ス可シ且其難破ノ大小ニ拘ハラズ其旨ヲ直チニ管廳ヘ報知スヘシ

第二十三條 前條ノ救助ニ屬スル諸費用ハ船將又ハ其筋ノ士官ヨリ直チニ受取ヘシト雖モ總テ管廳ノ指揮ヲ受クヘシ

但第十一條ニ記載スル保安物ニ就テハ別段相當ノ手當ヲ與フ可シ

第二十四條 貢米及ヒ其地ノ官物ヲ積入候船難破ニ及ヒ候節現場救助ヲ除クノ外總テノ處置ハ管廳ヘ申立ノ上其指揮ヲ受ク可シ

但郵便物ヲ積込候船ハ其最寄郵便役所又ハ取扱所ヘ郵便行囊ヲ至急引渡ス可シ

第二十五條 難船取扱ノ間浦役人ノ日給ハ一日五十錢ヨリ多カラズ十錢ヨリ少ナカラサルモノトス

難破ノ節働人足賃及ヒ小舟賃ハ土地ノ異同ト勞役ノ難易ニ依リテ同レカラスト雖モ各管廳ニ於テ適宜見積リ豫カシメ其額ヲ定メ置ク可シ

第二十六條 船長及ヒ擔任ノ者怠慢ニヨリ難破沈没其他ノ損害ヲ生スル時ハ其損失ヲ其者ヨリ償却セシム可シ若シ其災厄人智ノ前知ス可カラズ人カノ豫防ス可カラサルニ出ルヲ瞭然明証スル時ハ此限ニアラス

第二十七條 浦役人船長其他救助ノ者ト申合セ其保安シタル難船物ヲ沈没

ト偽リ竊ニ賣買スル者ハ律ニ照シテ處分ス可シ

第二十八條 凡テ難船ノ節救助ニ托シテ積荷船其他ノ物品ヲ竊盜或ハ掠奪スル者又ハ其竊盜掠奪ニ與スル者或ハ其本犯ヲ陰匿スル者又ハ竊盜物ト知テ之ヲ賣買スル者ハ律ニ照ラシテ處分スヘシ

第二十九條 以下漂着ノ部

凡原因ノ知レサル難船漂着物及ヒ乗組人ナキ漂着船ヲ見付ル者ハ之ヲ浦役人ニ報知ス可シ浦役人ハ其調書ヲ作り之ヲ其管廳ヘ届出ヘシ

第三十條 乗組人ナキ船ハ其漂着ノ月日船ノ大小破損ノ模様等ヲ精細ニ書記シ漂着物ハ其品名箇數等精細ニ書記ルシ其漂着近傍人民輻湊ノ地ノ揭示場及ヒ船政所ヘ六十日間張出スヘシ尤モ漂着物ノ代價二十圓以上ト思量シ或ハ貳十圓以下タリモ必要ノ品柄ト思量スルキハ其管廳ヨリ三府五港ノ管廳及ヒ税關ヘ報告シテ張出ヲナシ或ハ新聞紙ニ載セテ公告ス可シ

第三十一條 漂着物ノ持主知レタル時ハ左ノ區別ニ循ヒ處置ス可シ

第一 一ヶ年以内ハ其見積代價ノ三分一ヲ取揚主ニ與其現品ハ持主ヘ還納スル事

但持主ノ情願ニヨリ現品賣拂ヒ其代金ニテ受取ルヲ得ヘシ

第二 一ヶ年ヲ過クレハ之レヲ公賣シ其代價ヲ平分シ一半ハ其揚取主ニ



與へ一半ハ官ニ收ル事

但三ヶ年以内ニ其持主知レタル時ハ官ニ收メシ部分ハ下戻ス可シ  
第三十二條 乗組人無之漂着船ノ持主知レタル時ハ左ノ區別ニ從ヒ處置ス可シ

第一 一ヶ年ハ其見積代價ノ十分ノ一ヲ見附主ニ與へ其船ノ持主ニ返還スル事

但書ハ前條第一項ニ同シ

第二 一ヶ年ヲ過クレハ公賣シ其代價ノ三分一ヲ見附主ニ與へ其餘ノ二分ハ官ニ收ムル事

但書ハ前條第二項ニ同シ

第三十三條 前二條ニ記スル場合ニ於テハ律例得遺失物ノ條ト牴觸スルコトナカルヘシ

第三十四條 凡ソ漂着物ヲ保存シ及ヒ之ヲ公告スル等ノ事ニ付費用アルモノハ第十一條ニ照ラシ浦役人ノ與印シタル證書ヲ以テ代價ノ全部中ヨリ之ヲ償却スヘシ

第三十五條 洋中ニ於テ離破イタル桅檣其他ノ船具ニ取附キ海岸ニ漂着致シ候者有之節ハ浦役人ヨリ一通リ取調相當ノ保護ヲ加ヘ置直チニ管轄ニ届出其指揮ヲ受ク可シ尤本人歸郷ノ旅費其他ノ手當等貸還ハシ候節ハ第

十三條ノ通り退テ本人ヨリ償却セシム可シ

第三十六條 凡漂着物ヲ見附ケタル者之ヲ浦役人ニ報知スルコトナク其物品ヲ私カニ使用シ又ハ之ヲ賣買スル者ハ第廿八條ニ照シテ處分ス可シ

第三十七條 暴風雨等ニテ流失ノ材木ヲ取揚クル時ハ此規則第廿九條以下ニ照準シ其代價十分ノ一ニ過キササル取揚料ヲ遺ス可シ(明治十年第廿九號布告ヲ以テ改正)

第三十八條 前條ノ場合ニオイテ取揚タル材木巨大ニシテ領置ニ不便ナル者ハ官之ヲ公賣シ其代價ヲ以テ現物ト看做シ持主ノ有無ニ從ヒ處分スヘシ(明治十一年第三十二號布告ヲ以テ追加)

○船難報告及船難證書 明治十年八月 第五十五號布告

外國人ニ關係アル貨物ヲ積載シタル西洋形船ニシテ船難報告又ハ船難證書ノ手數ヲ要スルハ其船長ヨリ我國内ニ於テハ最寄税關又外國ニ於テハ該地在留我領事館へ申出ヘシ即チ授受手續別紙ノ通被定候條此旨布告候事

(別紙)

船難報告 英語シツプス 船難證書 英語エキステンチツト  
船難報告 英語シツプス 船難證書 英語エキステンチツト

船難報告ハ暴風雨其他ノ海難ニ由リ損害ヲ生セリト思考スルハ豫メ其現實ヲ報告スル迄ノモノトス故ニ危難請合社ニ向テ請合金ヲ要求スル充分ノ憑據ト爲スニ足ラス唯後日船難證書ヲ記スルニ必要ノ引證ニ供

スルモノトス

船難證書ハ現ニ損害ノ多少ヲ明確シ得タルハ其損害ノ原因及之ヲ生シタル月日場所等ヲ詳細記載スヘキモノニシテ其記入ノ件々眞誠確實ナリト思惟スルハ危難請合社ニ向テ請合金ヲ要求スルニ充分ノ憑據ト爲スヘキモノトス

授受手續

第一條 各商船ノ船長ヨリ遭難ノ實況ヲ申出ルルハ其地ノ税關長或ハ領事其船長ノ申立ニ從ヒ第一號書式ノ書面ヲ造リ税關長ニ其名ヲ手署セシメ然ル後自ラ官名姓名ヲ手書シテ之ヲ公證シ一通ハ其廳ニ收メ置他ノ一通ハ船長ニ下ケ渡スヘシ

第二條 船難報告ハ着船ノ後二十四時ノ内ニ手數ヲナシ若シ此時限ニ後ルハ其公證ヲ與ヘサルヘシ然レモ船長ヨリ其遲延ノ次第ヲ辨明シ十分満足スヘキ理由アルハ其次第ヲ報告書ニ記載シテ其公證ヲ與フヘシ

第三條 船難證書ハ大畧第二號書式ニ從テ記スヘク而シテ船長運轉手及ヒ他ノ一名ノ海員ヲシテ税關長又ハ領事ノ目前ニ於テ同號甲ノ明告狀ヲ記サシメ且税關長又ハ領事ハ同號乙ノ與書ヲ以テ之ヲ公證スヘシ

第四條 船難證書ハ一航海中ニ遭遇シタル變難及ヒ生シタル損害ノ實況ヲ報告スル者ニ付航海日誌其他公證ニ供スヘキ書類ニ因リ或ハ信任スヘキ

海員ノ申立ニ從テ眞確ノ事實ヲ採蒐記載セシムヘシ

第五條 船難證書ハ必ス二通ニ記シ其一通ハ其廳ニ收メ置キ他ノ一通ハ船長ニ下ケ渡スヘシ

第六條 税關又ハ領事館ニ於テ收メ置キタル船難證書ヲ一覽セント欲スルカ又ハ其寫ヲ願受ント請フモノアルハ其廳ノ公務時間中ハ何時ニテモ之ヲ聽スヘシ但シ寫ヲ附與スルハ本書ト相違セサル様緊密ニ讀ミ合セ且第二號丙ノ書式ニ從テ與書ヲナスヘシ

第七條 船長以下ノモノ船難證書ヲ了解シ能ハサル者或ハ全ク讀ミ得サル者アレハ其明告狀ニ連署ヲナサシムルノ以前ニ於テ丁寧ニ之レヲ讀ミ聞セ充分其意味ヲ了解セシムヘシ

第八條 船難報告及ヒ船難証書トモ國字ヲ原文英字ヲ譯文トナシ必ス原譯兩文ヲ以テ記スヘシ然レモ場合ニヨリ原文ノミヲ記シ又ハ譯文ノミヲ記スルコトアルヘシ

第九條 船難報告船難證書及船難證書ノ寫ヲ付與スルハ左ノ手數料ヲ收スヘシ

- 船難報告 一通 金壹圓
- 船難證書 一通 金五圓
- 但寫一通ヲ添フ

正本ニ添フタル者ヲ除ク外ハ

船難證書寫 一通 金壹圓

第十條 第二號書式用紙ハ適宜タルヘシト雖モ第一號書式用紙ハ稅關又ハ領事館ノ費用ヲ以テ製造シ收入シタル手数料ハ每半年分取束テ大藏省ヘ上納スヘシ

(書式器之)

○檢視

○檢視上變死者解剖 明治十年二月

第二十二號布告

變死ニ係ル屍ヲ警察官吏檢査スル時ニ於テ解剖ヲ行ハサレハ其致命ノ原由ヲ確知シ難キ旨醫師申立ル時ハ檢事檢事派出ナキ地方ハ其地方長官ノ許可ヲ受ケ其部分ヲ解剖檢査セシムルコトヲ得

右布告候事

○官廳工場艦船内等變死死傷者檢視手續 明治十三年

第十四號達

官省院使 府縣

明治十一年三月第十二號達左ノ通改正候條此旨布告候事

官廳内並ニ官有ノ工場及ヒ艦船等ニテ變死ニ係ル者及重傷死ニ至ル者ハ

近傍ノ警察所ヘ報知シ檢視ヲ受クヘシ

但軍人軍屬ニシテ陸海軍官限り處分ヲ了シ警察官ノ檢視ヲ要セサル分及ヒ遠洋航海中ニ係ルモノハ此限ニアラス

○行旅死亡人取扱規則 明治十五年九月

第四拾九號布告

行旅死亡人取扱規則左ノ通制定ス

行旅死亡人取扱規則

第一條 凡ソ引取人ナキ行旅死亡人アルキ所在戸長ハ之ヲ最寄墓地ヘ假埋葬スヘシ其倒死變死等ニ係ル者ハ警察官ノ檢視ヲ受クヘシ

第二條 死亡人ノ本籍氏名詳ナルキ戸長ハ死亡ノ狀況并ニ埋葬其他死亡人ニ屬スル費用ノ計算書ヲ本籍戸長ハ之ヲ其家ニ通示シ費用ノ辨償ヲ要スルキハ三十日限差出サシメ埋葬地戸長ニ送付スヘシ若シ其家赤貧ニシテ辨償シ能ハサルキハ其本籍地方稅ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第三條 死亡人ノ本籍氏名詳ナラサルキ戸長ハ其相貌景狀附屬シタル物品場所年月日等ヲ詳記シ三十日間最寄揭示場ヘ揭示シ且兩度以上新聞紙ヲ以テ公告スヘシ公告ノ日ヨリ九十日ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルキハ該費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第四條 死亡人所持ノ金錢ハ埋葬其他死亡人ニ屬スル費用ニ供スヘシ又所

持ノ物品ハ前條ノ期限ヲ過キ仍ホ本籍詳ナラサルキハ之ヲ公賣シ同上ノ費用ニ充ツヘシ

但本籍氏名詳ナル者其家赤貧ニシテ費用ヲ辨償スルコト能ハサルキハ直ニ其物品ヲ公賣スルモ妨ケナシ

第五條 死亡人ノ遺財前條ノ費用ニ充テ餘贏アルキハ之ヲ本籍へ送付スヘシ其本籍氏名詳ナラサルモノハ之ヲ五ヶ年間戸長役場ニ保管シ仍ホ本籍氏名詳ナラサルニ於テハ地方稅雜收入ニ組入ルヘシ  
右奉 勅旨布告候事

○墓地埋葬取締

○火葬禁止ノ布告ヲ廢ス 明治八年五月 第八十九號布告

明治六年七月第二十五十三號火葬禁止ノ布告ハ自今廢シ候條此旨布告候事

○自葬ヲ禁シ葬儀ハ神官僧侶ニ依頼セシム 明治五年六月 第九十二號布告

近來自葬取行候者モ有之哉ニ相聞候處向後不相成候條葬儀ハ神官僧侶ノ内へ可相頼候事

○明治十五年一月内務省乙第七號達

府 縣

自今神官ハ教導職ノ兼補ヲ廢シ葬儀ニ關係セサルモノトス此旨相達候事  
但府縣社以下神官ハ當分従前ノ通

○墓地及埋葬取締規則 明治十七年十月 第二十五號布達

墓地及埋葬取締規則左ノ通相定ム

墓地及埋葬取締規則

第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス

第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クヘキモノトス

第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬チナスコトヲ得ス

但別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス

第四條 區長若クハ戸長ノ認許証ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬チナスコトヲ得ス

但改葬チナサントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戸長ノ認許證ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬又ハ火葬チナサシムヘカラス又警察署ノ許可證ヲ得タル者ニ非サレハ改葬チナサシムヘカラス

第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フヘシ  
 第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ其  
 許可ヲ得スシテ建設シタルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ  
 但墓外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス  
 第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事縣令ニ於テ便宜取設  
 ケ内務卿ニ届出ヘシ  
 右布達候事

○墓地及埋葬取締規則違背者處分 明治十七年十月  
第八十二號達

警視廳 府縣

今般第二十五號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付此規則ニ違背スルモ  
 ノハ違警罪ノ刑ヲ以テ處分スヘシ此旨相達候事

○墓地及埋葬取締規則施行方法細則標準 明治十七  
年十一月  
内務省乙第  
四十號達

府縣

本年第二十五號布達第八條ニ記載セル方法細目ハ左ノ條件ヲ標準トスヘシ  
 此旨相達候事

- 第一條 墓地ハ従前許可セラレタル者ニ限ル  
 但止ム事ヲ得サル事情アリテ之レヲ取廣メ又ハ新設スル場合ニ於テハ  
 地方廳ニ願出ヘシ
- 第二條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡ソ  
 六十間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障ナキ地ヲ撰ムヘシ
- 第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ  
 死シタルモノハ何人ニテモ之ニ葬ルコトヲ得其従前別段ノ習慣アルモノ  
 ハ此限ニアラス  
 但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スルモノ  
 トス
- 第四條 墓地ノ周圍 墓地ト墓地ニ非ル  
地トノ境界ヲ云フニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以  
 上ノ樹木塀牆ヲ存スヘカラサルモノトス  
 但従前ヨリ現存スル者ハ此限ニアラス
- 第五條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス
- 第六條 火葬場ハ人家及人民輻湊ノ地ヲ隔ル凡ソ百二十間以上ニシテ風上  
 ニ位セサル地ヲ撰ヒ火爐烟筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塀  
 牆ヲ設クヘシ  
 但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル場所ナルキハ格別ナリトス

第七條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ

第八條 壙穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ格別ナリトス

第九條 墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ハ區役所又ハ戶長役場ニ届ケ置クヘシ

第十條 死者ノ姓名族籍官位勳位法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳贊ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ所轄警察署ノ許可ヲ受ルノ限ニアラス

第十一條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘテ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ

醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルキハ醫師ノ檢案ヲ差出シ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルキハ醫師若クハ產婆ノ死産證ヲ差出シ區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フヘシ

變死ニ係ルキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ  
囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

第十二條 區戶長ハ前條ノ届書證書ヲ領収スルニアラサレハ埋火葬ノ認許

證ヲ與フヘカラス

第十三條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル區戶長ノ認許證ヲ編纂シ毎三ヶ月所轄警察署ノ檢閱ヲ受ケテ之ヲ區役所又ハ戶長役場ヘ差出スヘシ

第十四條 管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クヘシ

第十五條 (明治十九年内務省甲第  
五號達ヲ以テ本條削除)

○御紋徽章

○禁裡御用等ノ會符標札及菊御紋ヲ畫キタル提

灯器物等ヲ禁ス 明治元年三月二十八日  
布告

一禁裡御用或ハ禁裡御料又ハ禁裡御内杯ト會符榜示抗標札等ニ書記シ候儀ハ有之間敷事ニ候處往々見受候ニ付以來屹度相改御用御料ト而已書記致シ候様被仰出候事

但標札ハ姓名相記シ又ハ官名役名等記シ候儀不苦候事

一提燈又ハ陶器其外賣物等ニ御紋ヲ畫キ候事共如何之儀ニ候以來右之類御紋ヲ私ニ附候事急度可禁止旨被仰出候事

但御用ニ付是迄被免之分モ一應伺出可申事

右之通被仰出候條末々迄不洩様可申達事

○由緒アル社寺ノ外菊御紋ヲ用ユルヲ禁ス 明治二年八月  
告布

社寺ニテ是迄菊御紋用井來者不少候處今般御改正相成社ハ伊勢八幡上下加茂等寺ハ泉涌寺般舟院等ノ外ハ一切被差止候旨被仰出候事但格別由緒有之社寺ハ由緒書ヲ以テ可窺出候事

○由緒ノ有無ニ不關菊御紋ヲ禁ス 明治四年六月  
第百五十九号布告

菊御紋禁止ノ儀ハ兼テ御布告有之候處猶又向後由緒ノ有無ニ不關皇族ノ外總テ被禁止候尤御紋ニ紛敷品相用候儀モ同様不相成候條相改可申事但シ從來諸社ノ社頭ニ於テ相用來候分ハ地方官ニ於テ取調可申出事

○官國幣社々殿ノ裝飾及社頭ノ幕提灯ニ限リ菊御紋ヲ用ユルヲ許ス 明治七年四月二日  
達

開拓使京都府大坂府兵庫外十四縣  
社寺ニテ菊御紋相用候儀禁止ノ旨明治二年己巳八月布告候處自今官幣社殿ノ裝飾及社頭之幕提灯ニ限リ菊御紋相用不若候條此旨管内官幣社へ可相達事

○明治十二年四月 第貳拾號達

國幣社所在使府縣

社寺ニテ菊御紋相用候儀ニ付明治十二年布告ノ趣モ有之候處自今國幣社殿ノ裝飾及社頭之幕提灯ニ限リ菊御紋相用不若候條此旨管内國幣社へ可相達事

○一般社寺ノ神殿佛堂ニ裝飾シタル分ニ限リ菊御紋存置ヲ許ス 明治十二年五月  
第貳拾三號達

使府縣

一般社寺ニ於テ菊御紋相用候儀不相成旨明治二年八月布告ノ趣モ候處右布告前神殿佛堂ニ裝飾シタル分ニ限リ其儘保存シ置キ若シカラヌ候此旨相達候事

○菊御紋ヲ畫キタル賣品取締方 明治十三年四月  
府 縣  
宮内省乙第二號達

菊御紋ヲ賣物等ニ畫キ候儀並紛敷品相用候儀不相成旨明治元年三月二十八日明治四年六月十七日大政官布告ノ趣モ有之候處近來往々賣品ニ御紋章ヲ畫キ候向有之哉ニ付取締方一層注意可致候此段相達候事

○陸海軍徽章有之服帽等私ニ着用賣買等ヲ禁ス

明治七年三月  
陸軍省第三百三十一號布達

陸軍徽章有之服帽等其職ニ非スシテ私ニ着用賣買共一切不相成旨辛未十一月及布達置候處先般服制改定候得共猶從前布達ノ通賣買着用共不相成候此旨更ニ布達候事

○明治七年三月 海軍省第一號達

海軍徽章有之服帽等其職ニ非スシテ私ニ着用並ニ賣買典物共一切不相成候條此旨相達候事

第十七類 兵制

○戒嚴

○戒嚴令 明治十五年八月  
第三十六號布告

戒嚴令別冊ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

(別冊)

戒嚴令

第一條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地方ヲ警戒スルノ法トス

第二條 戒嚴ハ臨戰地境ト合圍地境トノ二種ニ分ツ

第一 臨戰地境ハ戰時若クハ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區域ト爲ス者ナリ

第二 合圍地境ハ敵ノ合圍若クハ攻撃其他ノ事變ニ際シ警戒スヘキ地方ヲ區畫シテ合圍ノ區域ト爲ス者ナリ

第三條 戒嚴ハ時機ニ應シ其要スヘキ地境ヲ區畫シテ之ヲ布告ス

第四條 戰時ニ際シ鎮臺營所要塞海軍港鎮守府海軍造船所等邊カニ合圍若クハ攻撃ヲ受クル時ハ其地ノ司令官臨時戒嚴ヲ宣告スルヲ得又戰畧上



臨機ノ處分ヲ要スル時ハ出征ノ司令官之ヲ宣告スルヲ得

第五條 平時土寇ヲ鎮定スル爲メ臨時戒嚴ヲ要スル場合ニ於テハ其地ノ司令官速カニ上奏シテ命ヲ請フ可シ若シ時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ道ナキ時ハ直ニ戒嚴ヲ宣告スルヲ得

第六條 軍團長師團長旅團長鎮臺營所要塞司令官警備隊司令官若クハ分遣隊長或ハ鑑隊司令官鎮守府長官若クハ特命司令官ハ戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官トス(明治十九年勅令第七十四號ヲ以テ(要塞)司令官)ノ下警備隊云々ノ十三字ヲ加フ)

第七條 戒嚴ノ宣告ヲ爲シタル時ハ直チニ其狀勢及ヒ事由ヲ具シテ之ヲ太政官ニ上申ス可シ

但其懸屬スル所ノ長官ニハ別ニ之ヲ具申ス可シ

第八條 戒嚴ノ宣告ハ疊ニ布告シタル所ノ臨戰若クハ合圍地境ノ區畫ヲ改定スルヲ得

第九條 臨戰地境內ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ノ軍事ニ關係アル事件ヲ限り其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ

第十條 合圍地境內ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ハ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布

告若クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ

第十一條 合圍地境內ニ於テハ軍事ニ係ル民事及ヒ左ニ開列スル犯罪ニ係ル者ハ總テ軍衙ニ於テ裁判ス

刑法

第二編

第一章 皇室ニ對スル罪

第二章 國事ニ關スル罪

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第四章 信用ヲ害スル罪

第九章 官吏瀆職ノ罪

第三編

第一章

第一節 謀殺故殺ノ罪

第二節 毆打創傷ノ罪

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第七節 脅迫ノ罪

第二章

第二節 強盜ノ罪

第七節 放火失火ノ罪

第八節 決水ノ罪

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及動植物ヲ害スル罪

第十二條 合圍地境內ニ裁判所ナク又其管轄裁判所ト通路斷絶セシ時ハ民事刑事ノ別ナク總テ軍衙ノ裁判ニ屬ス

第十三條 合圍地境內ニ於ケル軍衙裁判ニ對シテハ控訴上告ヲ爲スヲ得ス

第十四條 戒嚴地境內ニ於テハ司令官左ニ記列ノ諸件ヲ執行スルノ權ヲ有ス但其執行ヨリ生スル損害ハ要償スルヲ得ス

第一 集會若クハ新聞雜誌廣告等ノ時勢ニ妨害アリト認ムル者ヲ停止スル

第二 軍需ニ供ス可キ民有ノ諸物品ヲ調査シ又ハ時機ニ依リ其輸出ヲ禁止スル

第三 銃砲彈藥兵器火具其他危險ニ涉ル諸物品ヲ所有スル者アル時ハ之ヲ檢査シ時機ニ依リ押收スル

第四 郵便電報ヲ開緘シ出入ノ船舶及ヒ諸物品ヲ檢査シ並ニ陸海通路ヲ停止スル

第五 戰狀ニ依リ止ムヲ得サル場合ニ於テハ人民ノ動産不動産ヲ破壞燬燒スル

第六 合圍地境內ニ於テハ晝夜ノ別ナク人民ノ家屋建造物船舶中ニ立入り檢査スル

第七 合圍地境內ニ寄宿スル者アル時ハ時機ニ依リ其地ヲ退去セシムル

第十五條 戒嚴ハ平定ノ後ト雖モ解止ノ布告若クハ宣告ヲ受クルノ月迄ハ其效力ヲ有スル者トス

第十六條 戒嚴解止ノ日ヨリ地方行政事務司法事務及ヒ裁判權ハ總テ其常例ニ復ス

○法律規則中戰時ト稱スル場合

明治十五年八月第三拾七號布告

凡ソ法律規則中戰時ト稱スルハ外患又ハ内亂アルニ際シ布告ヲ以テ定ムルモノトス

右 奉勅旨布告候事

○徵發

○徵發令

明治十五年八月第四十三號布告

徵發令別冊ノ通制定ス  
右奉 勅旨布告候事

(別冊)

徵發令

- 第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ勦カスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス  
但平時ト雖モ演習及行軍ノ際ハ本條ニ準ス
- 第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵書ヲ以テ之ヲ行フ
- 第三條 左ニ記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス
  - 一 陸軍卿海軍卿鎮臺司令官及ヒ鎮守府長官
  - 二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長
  - 三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令官長官艦隊司令官分遣艦隊長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長
- 第四條 徵發ス可キモノノ種類ニ依リ徵發區ニ准ス  
一 第十二條第一項ハ 府縣  
二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ 郡區  
三 第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ 町村

（明治十六年六月七日鳥取縣令）  
同日陸軍省第七十七號令  
同日陸軍省第七十七號令  
同日陸軍省第七十七號令  
同日陸軍省第七十七號令

（明治十六年三月十日和歌山縣令）  
同日海軍省第八十二號令  
同日海軍省第八十二號令  
同日海軍省第八十二號令

四 船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ源軍ハ 會社  
第五條 徵發スヘキモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル  
第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社店長ニ付ス可シ

第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス  
第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應スヘキ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ違フトキハ府知事縣令郡區長戶長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ

第十條 徵發ヲ課セラレタルモノノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證票ヲ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ

第十二條 徵發ス可キモノ左ノ如シ  
一 米麥秣藜鹽味噌醬油漬物梅干及ヒ薪炭

（明治十六年二月十四日陸軍省令）  
同日陸軍省第八十二號令  
同日陸軍省第八十二號令  
同日陸軍省第八十二號令

徵發ヲ課セラレタ  
ルモノ其費用ノ辨  
償ヲ拒ムトキハ明  
治十六年第三十一  
號布告ニ依リ取立  
フヘシ

明治十六年二月  
十日 陸軍省令

海軍省令

令第九條 他方ヲ以  
テ開達ノ爲メ特ニ  
生シタル費用ニシ  
テ例第十五條ノ規  
期ノ事由正當ナル  
トキハ例第四十  
條ノ同シク該徵發  
區ノ負擔タルヘシ

第十條  
（明治十六年二  
月二十一日新  
瀋縣同八月  
十四日陸軍省指  
令）

令第十條ニ徵發ヲ  
課セラレタル商用  
其他（中）藏匿シ  
タルトキハ直ニ之  
ヲ使用スルコトヲ得  
ルト在リ其使用ノ

- 二 乘馬駄馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具
- 三 人夫
- 四 宿舍廐園及倉庫
- 五 飲水石炭
- 六 船舶
- 七 鐵道瀛車
- 八 演習ニ要スル地所
- 九 演習ニ要スル材料器具
- 第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲クルモノノ外徵發ス可キモノ左ノ如シ但平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス
- 一 造船所工作所及ヒ軍事ノ工作ニ要スル器具
- 二 職工礦夫洗濯人ノ類
- 三 被服裝具鞋兵器彈藥船具寢具藥劑治療器械其ヒ綑帶具
- 四 水車搗春ノ類
- 五 病院
- 第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ
- 一 皇族所用ノ車馬
- 二 外國公使館並ニ領事館ニ屬スル車馬

權アハルモノハ當該  
官區長若クハ府縣知  
事郡區長若クハ支  
長ニ於テモ之ヲ取  
揚ケ官廳ニ送付ス  
タル官廳ニ送付ス  
ル權アリ但此場合  
ラレタレバ物品代價  
ハ之ヲ賠償スヘシ

（明治十六年二  
月二十一日新  
瀋縣同八月  
十四日陸軍省指  
令）

山縣同和歌  
山縣同和歌  
月二日 陸軍省指  
令

令第十條 供給ヲ拒  
ムニ物品若シテ同第  
十二條ノ他ノ寄託係  
品ナリト稱シ又寄託  
品ニ資リテ以テスル  
等ノ証左ヲ以テスル  
ルトモ物件營業者  
ノ許ニ存スルモノ  
ハ例第二十條ニ  
據リ先收スルモ苦  
シカラス

第十二條  
（明治十六年四  
月五日滋賀縣  
同陸軍省令）

令第十二條 第一項

- 三 乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹
- 四 郵便用ノ車馬
- 五 公認セラレタル種牛種馬
- 第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ
- 一 公務ニ屬スル麻署
- 二 皇族ノ邸宅
- 三 外國公使館領事館及ヒ其所屬館
- 四 鐵道電信郵便用ノ建造物
- 五 陸海軍將校並ニ同等官現住ノ家屋
- 六 博物館書籍館
- 七 病院盲啞院養兒院
- 八 學校但臨戰合圍地境內ニ在リテハ此限ニ在ラス
- 九 製造場內機械室
- 第十六條 第十二條第二項ニ掲クルモノノ使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス
- 第十七條 第十二條第二項ニ掲クルモノノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ超ユルコトヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得

ニ際ルモノヲ差出  
場所ニ輸送シタル  
後若シ官ノ都合ニ  
テ其幾分又ハ全分  
不用トナリタルト  
キハ官ニ於テ適宜  
ニ於テハ關係ナシ

(明治十六年二月  
十六日和歌山縣  
海軍省指令)

令第十二條第二項  
ニ於テハ該項ノ物  
件ニ關シテハ第三  
項ノ規定ニ依リテ  
スルコトヲ得

(明治十六年六月  
二十七日鳥取縣  
陸軍省指令)

第十八條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ合圍地境內ヲ除クノ外居住者ノ  
起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必用ナルモ  
旅店等ハ此限ニ在ラス

第十九條 宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故  
ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム

第二十條 第十二條第四項ニ掲クルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特  
ニ其場所ヲ指定スルコトアル可シ

第二十一條 宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムル  
コトヲ許サス厩園倉庫亦同シ

第二十二條 宿舍宿園ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供  
給スヘシ但駐軍三日以上ニ至ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍  
ノ自辨トス

第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノ  
ハ併セテ供給セシム

第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ戰時若クハ事變ニ  
際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可シ

第二十五條 第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲クルモノハ其操業者ヲ  
併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得

(明治十六年二月  
二十八日群馬縣  
陸軍省指令)

令第十五條第五項  
ニ於テハ該項ノ物  
件ニ關シテハ第三  
項ノ規定ニ依リテ  
スルコトヲ得

令第十二條第二項  
ニ於テハ該項ノ物  
件ニ關シテハ第三  
項ノ規定ニ依リテ  
スルコトヲ得

(明治十六年四月  
五日滋賀縣  
陸軍省指令)

令第十二條第二項  
ニ於テハ該項ノ物  
件ニ關シテハ第三  
項ノ規定ニ依リテ  
スルコトヲ得

(明治十六年二月  
十六日和歌山縣  
海軍省指令)

令第十二條第二項  
ニ於テハ該項ノ物  
件ニ關シテハ第三  
項ノ規定ニ依リテ  
スルコトヲ得

第二十六條 第十二條第六項ニ掲クルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用  
スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及舢舨ニ充ツルモノハ此限ニ在  
ラス

第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル瀛車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具  
及ヒ操業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲クルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用  
スルヲ例トス但合圍地境內ニ在リテハ全ク明渡サシムルコトヲ得

第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法  
ニ從ヒ賠償ス

第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送賃ヲ  
支辨セス

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但  
戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞シテ三ヶ月ヲ越ユルトキハ年六分  
ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戸長停車場長船  
舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求ス可シ

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ  
就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

令第二十條  
三條  
同第十二條  
該項方令第三  
令第九條  
令第十二條  
令第十四條  
令第十八條

（明治三十一年）  
同陸軍省令  
同日陸軍省令  
同日陸軍省令  
同日陸軍省令  
同日陸軍省令

（明治二十八年）  
同日陸軍省令  
同日陸軍省令  
同日陸軍省令  
同日陸軍省令  
同日陸軍省令

（明治三十三年）  
同日陸軍省令  
同日陸軍省令  
同日陸軍省令  
同日陸軍省令  
同日陸軍省令

其毀損ハ持主若クハ探業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ戸長ニ届出可シ其届出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ニ可カラス若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限内持主若クハ探業者ニ於テ使用セシトキハ無効トス

- 一 西洋船舶 七日間
- 二 地所 評價委員ノ告示スル時日間
- 三 其他ノ物件 一日間

第三十四條 第十二條第一項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ケ年間ノ平均價ヲ取り之ヲ定ム其平均價ノ取り難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト探業者ト各個ニ分別シテ徵用シタルトキハ其郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラズ賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上クルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ外左ノ區別ニ從フ

- 一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃
- 二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乗載量五分ノ三ニ滿チタル以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿チサルモ五分ノ三ニ值ル平常ノ定賃
- 三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ探業者平常ノ給料航泊實費及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一ケ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

第四十三條 第廿六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ探業者ニハ平常ノ給料船

船ニハ第四十二條ノ損料トス但船橋及ヒ舢舨ニ充テタルモノ、賠償金額ハ第四十一條第三項ニ准ス

第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外平常ノ定償トス

第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ採業者ニハ平常ノ給料物件ニハ其他平常ノ代償若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキニ限り賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代償若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス

第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其他平常ノ代償若クハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フテ賠償ス全ク明渡サシムルトキハ第三十九條ノ例ニ准ス

第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ規避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲サハルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出ルモノハ貳拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲妄ニ徵發ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ出シタルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

○徵發費用怠納者處分並其費用ニ關シ出訴方明治  
年八月  
第三十一號布告

徵發令ニ依リ負擔スヘキ費用ノ怠納者ハ明治十年十一月第七十九號布告ニ依リ處分スヘシ但財産公賣ノ際買受望人ナキ時ハ徵發區ニ没入シ不足金アルキハ區ノ損失ニ歸ス右費用ニ關スル處分ニ就キ不服アルモノハ明治十五年五月第貳拾貳號布告ニ依ルヘシ

右奉 勅旨布告候事

○徵發事務條例 明治十五年十二月二十六號布達

徵發事務條例別冊ノ通之ヲ定ム  
右布達候事

(別冊)

徵發事務條例

- 第一條 徵發事務條例ハ徵發令ニ基キ實際取扱ノ規準ヲ定ムルモノトス
- 第二條 陸軍若クハ海軍官憲ハ徵發區ノ大小遠近及ヒ供給力ヲ酌量シ供給ヲ受ク可キ日時ヲ豫定シテ徵發書ヲ出ス可シ
- 第三條 徵發書ノ書式ハ附錄第一號ノ例ニ準ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ電信ヲ以テ徵發スルコトヲ得
- 第四條 徵發令第三條第二項及ヒ第三項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長艦隊司令官長官ハ時機ニ依リ其部下各團長若クハ各艦隊司令官ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ分任スルコトヲ得
- 第五條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長第三項中ニ掲クル特命司令官艦隊司令官分遣隊長ハ其獨立中ニ限り徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス故ニ師團長艦隊司令官ト雖モ軍團若クハ二艦隊以上ニ編制セラレタルトキハ徵發書ヲ出スノ權ナシ其軍團長若クハ艦隊司令官長官ノミ之ヲ有ス

- 第六條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル演習及ヒ行軍ノ軍隊長トハ諸團隊ヲ統フル長以上ヲ言ヒ第三項中ニ掲クル操練及ヒ航海ノ艦隊司令官トハ諸艦ヲ統フル長ヲ言ヒ艦長トハ先任艦長又ハ獨立艦長ヲ言フモノニシテ其長ノミ徵發令ヲ出スノ權ヲ有ス但陸軍演習若クハ海軍操練ノ時一ノ總指揮官ヲ置クト雖モ其部下ノ團隊若クハ各艦往返發着ノ地ヲ異ニスルトキハ往返中ニ限り其艦隊長若クハ艦長各自ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス
- 第七條 徵發ニ應シタル人員ハ勉メテ彈丸ノ達セサル場所ニ於テ之ヲ使用ス可シ
- 第八條 徵發物件其徵發ヲ課セラレタル地ニ現在スルモ其所有者又ハ其支配人不在ナルトキハ戸長及ヒ證人二人其町村内ニ住スル親族又ハ預リ主又ハ同立會ノ上其物件ヲ調査シ供給セシム可シ物品營業ノ内ヨリ戸長ノ撰定スルモノ
- 第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ徵發令第十二條第六項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項第五項ノ物件及ヒ第二十條ノ場合ヲ除クノ外其現在ノ所有品ヲ供給セサルモ便宜ニ從ヒ他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルコトヲ得其徵發ニ應スヘキ人員亦同シ
- 第十條 徵發書ハ徵發令第六條ニ依リ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付スヘシト雖モ臨戰若クハ合圍ノ地ニ在テ時機切迫

（明治十五年四月）  
 同日十月三日  
 陸軍省令  
 第八條  
 町村內ニ住スル親族又ハ預リ主又ハ同立會ノ上其物件ヲ調査シ供給セシム可シ  
 町村內ニ住スル親族又ハ預リ主又ハ同立會ノ上其物件ヲ調査シ供給セシム可シ  
 及觀族等無之場合於  
 於於テハ相當ト認ム  
 他ノ相當ト認ム  
 ト者ノ撰定シタル人



シタル場合ニ於テハ府縣ニ付ス可キモノヲ郡區又ハ町村ニ付シ郡區ニ付スヘキモノヲ町村ニ付シ店長ニ付ス可キモノヲ船長ニ付スルコトアル可シ

右ノ手續ヲモ爲ス能ハサル場合ニ於テハ徵發書ヲ出スノ權アル官憲ヨリ直ニ人民ニ賦課シテ徵發スルコトアル可シ但此場合ニ於テハ徵發書ヲ用ヒス本人ニ受領證書ヲ交付スルニ止ル

本條ノ場合ニ於テハ徵發ヲ行ヒタル官憲定例ノ順序ニ從ヒ府知事縣令郡區長戶長若クハ店長ニ其旨ヲ通知ス可シ

第十一條 徵發ノ命令ヲ受ケタルモノハ晝夜ヲ別タス速ニ其處置ヲナス可シ

第十二條 徵發書ヲ受ケタル徵發區ニ於テ賦課ノ數ニ不足スルトキハ速ニ供給ヲ受ク可キ官憲ニ報告スヘシ

町村ニシテ郡區長ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケ郡區ニシテ府知事縣令ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケタルトキ其賦課ノ數ニ滿ツル能ハサルニ於テハ戶長ハ郡區長ニ郡區長ハ府知事縣令ニ速ニ其旨ヲ報告ス可シ但此場合ニ於テハ陸海軍官憲若クハ府縣廳郡區役所ヨリ吏員ヲ派出シ檢査セシムルコトアル可シ郡區長府知事縣令其報告ヲ受ケタルトキハ郡區長ハ他ノ町村ニ府知事縣令ハ他ノ郡區ニ賦課シテ供給ヲ定全セシムヘシ

第十三條 府知事縣令徵發令第十二條第一項ニ係ル徵發書ヲ受ケタルトキハ速ニ其賦課シタル郡區ノ名及ヒ量數ヲ陸海軍官憲ニ報告スヘシ

第十四條 府知事縣令郡區長及戶長ハ徵發令第八條ニ從ヒ徵發ニ應スル便宜ノ方法ヲ豫定ス可シ

第十五條 徵發ヲ課セラレタルモノ供給ノ時期ニ違ヒタルトキハ徵發令第九條ニ照シ處分ス可シト雖モ正當ノ事由ヲ証明シタルトキハ辨償セシムルノ限ニアラス

第十六條 徵發令第十一條ニ掲クル受領証票ハ附錄第二號雛形ニ依リ調製スヘシ

第十七條 受領証票ニ徵發令第十二條第一項第五項ノ物件及ヒ總テ買上ケニ屬スル物件ニ係ルトキ領収ノ際直チニ之ヲ交付シ其他ハ徵用濟ノ後之ヲ交付ス可シ但徵用濟ノ後交付スル場合ニ於テハ同令第十二條第四項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項及ヒ第五項ニ掲クルモノヲ除クノ外當初領収ノ際假受領證ヲ交付ス可シ

第十八條 徵發令第十二條第二項第三項及ヒ第十三條第二項ニ掲クルモノヲ宿泊セシメテ連日使用シ若クハ三里以外ノ地ニ於テ使用スルトキ並ニ同令第十二條第六項ニ掲クルモノ船及ヒ船ヲ借切トシテ徵用スルトキハ特ニ本人若クハ採業者ニ受領証票ヲ交付スルコトアル可シ

第十九條 徵用十五日以上ニ及フモノハ一個月ニ一回若クハ二回期ヲ定メテ受領証票ヲ交付ス可シ

第二十條 徵發令第十二條第一項ニ掲クルモノ、徵發ヲ賦課スルハ其物品ノ營業者ヲ先トシ尙ホ完全セサルトキニ限り他ノ人民ニ賦課ス可シ其賦課ニ就テハ其地方及ヒ所有者ヲシテ困乏ニ陥ヒラサシムル爲メニ相當ノ分量ヲ各所有者ノ許ニ殘シ置ク可シ其分量ハ其地運送ノ便否及ヒ生計ノ現況ヲ酌量シテ之ヲ定ム可シト雖モ此ニ其最下限ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 營業者所有ノ物品ハ徵發書ノ日付ヨリ前十日間ニ其府縣内ニ賣拂ヒタル量但所有者ノ帳簿ニ基キ算定ス可シ

二 他ノ人民所有ノ物品ハ其一家ニ要スル十日間ノ量

三 秣芻ハ其家畜ニ要スル七日間ノ量

第二十一條 郡區長ハ附錄第三號一ノ雛形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ之ヲ府縣廳ニ差出ス可シ(明治十九年附令第十一號ヲ以テ改正)

第二十二條 (同上達ヲ以テ改正)

第二十三條 (同上)

第二十四條 府知事縣令ハ附錄第三號二三ノ雛形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ郡區長ヨリ差出シタル表ト共ニ毎年三月三十一日限り陸軍省ヘ送付スヘシ

シ(同上達ヲ以テ改正)

第二十五條 北海道廳長官府縣知事ハ附錄第四號一二三第五號一二ノ雛形ニ依リ西洋形船舶器械製造修履場表日本式西洋式鑄造場表旋盤三臺以上裝置鐵工場表船舶表漁船表ヲ製シ毎年三月三十一日限海軍省ヘ送付スヘシ但其管内ニ於テ新タニ構造シ若クハ買入タル漁船アル時ハ第五號三ノ雛形ニ依リ漁船表ヲ製シ其時々同省ヘ送付スヘシ(明治十九年附令第二十九號ヲ以テ改正)

第二十六條 徵發令第十二條第二項第六項第七項ニ掲クルモノハ總テ使用ノ爲メニ必用ナル器具ヲ併セテ供給スヘキモノトス故ニ其屬具ニ對スル賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十七條 徵發令第十二條第六項ニ掲クル船舶中郵便船ニ限り其通信ノ用ニ供スル間ハ之ヲ借切ルコトヲ得ス又出船ノ定期若クハ航路ヲ變シテ徵用スルコトヲ得ス

第二十八條 徵發令第十八條中居住者ノ起臥ニ必要ナル場所トハ寢所及ヒ庖厨ヲ指シ營業ニ必要ナル場所トハ商估ノ店舗農工ノ仕事場ヲ言フ又旅店等トハ料理店貸坐敷貸廐等ヲ包含ス

第二十九條 宿舍ノ廣狹ハ徵發令第十九條ニ從ヒ臨時ニ定ムルモノナリト雖モ戶長於テ賦課ノ際標準ト爲スヘキモノヲ概定スルコト左ノ如シ  
一 廨署 陸海軍官憲ヨリ指示スル所ノ室若クハ家屋

二 將官參謀部ト共ニ 一家屋  
 三 上長官又ハ同等軍屬一名 一室  
 四 士官又ハ同等軍屬二名 一室  
 五 下士又ハ同等軍屬一名 一疊半乃至二疊  
 六 卒又ハ同等軍屬一名 一疊乃至一疊半  
 七 徵發ニ應シタル人員三名 二疊

第三十條 兵長ハ陸海軍ノ宿割主任官ニ商議シテ適宜ニ宿舍ノ配當ヲ定ム  
 ヘシ

第三十一條 徵發令第二十一條ニ從ヒ町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムル  
 コトヲ許サスト雖モ若シ該家ニ病者死者等アルトキハ兵長他ニ相當ノ宿  
 舎ヲ設ケテ轉移ヲ請求スルコトヲ得但之カ爲メ徵發令第二十二條ニ掲ク  
 ル日限ヲ更新スルニアラス

第三十二條 徵發令第二十二條ニ從ヒ人馬ニ供給ス可キ食飼ノ定量大率左  
 ノ如シ雖トモ陸海軍給ノ與規則ニ由リ定量以內ヲ以テ臨時ニ變換或ハ減  
 スルコトアル可シ

一人 精米每食二合 朝夕飯一汁一菜漬物 午飯一菜漬物  
 二馬 駐軍中 朝大麥二升秣芻五百目喰藁五百目 晝秣芻五百目  
 喰藁五百目 夕大麥二升秣芻五百目喰藁二百目

演習及ヒ行軍中 朝大麥二升秣芻五百目 晝大麥一升 夕大麥二  
 升秣芻一貫目喰藁五百目  
 小麥ヲ大麥ニ喰藁ヲ秣芻ニ代用スルトキ 朝小麥一升喰藁一貫目  
 晝小麥五合 夕小麥一升五合喰藁二貫目  
 搗麥又ハ裸麥ヲ大麥ニ喰藁ヲ秣芻ニ代用スルトキ 朝搗麥又ハ裸  
 麥一升喰藁一貫目 晝搗麥又ハ裸麥一升 夕搗麥又ハ裸麥二升喰  
 藁一貫目

寢藁ハ軍馬一頭ニ付一日一貫目ヲ要スルモノトス

第三十三條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ室内所要ノ燈火並ニ其地ノ  
 慣用ニ從ヒ地爐若クハ火鉢新炭毎室ニ一個ヲ給ス可シ其賠償ハ宿舍ノ賠  
 償金額中ニ包含ス

第三十四條 寢具ノ徵發ニ係ル賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含セス徵發令  
 第四十八條ニ從ヒ賠償ス

第三十五條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノ公有家屋社寺亦同シ食飼ニ供ス可キ物品  
 又ハ手傳人不足シ供給ヲ爲シ能ハサルノ証アルトキハ兵長ニ於テ賄ノ受  
 負ヲ立ツル歟若クハ物品及ヒ手傳人ヲ其本人ニ供スル等ノ取扱ヲ爲シ其  
 方法ハ本條例第十四條ニ准ス可シ

第三十六條 町村ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ニ要スル食飼ノ

物品不足スルトキハ戸長ニ於テ其物品ヲ供ス可シ但航海先ニ於テハ本條例第三十七條ニ准シテ處分ス可シ

第三十七條 會社ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ノ食飼ヲ供給スルコト能ハサルヲ証明スルトキハ現品ヲ官給シ其費用ハ賠償金ヲ以テ差引テ立ツ可シ

第三十八條 食飼ノ定貨ナキ船舶ヲ徵用シ船主船長ヲシテ其食飼ヲ供給セシムルトキハ陸海軍官憲ニ於テ其時々賠償金額ヲ定ム可シ其借切トシテ徵用シタルトキ亦同シ

第三十九條 徵發物件ノ差出場所ハ各徵發區内ニ設クルヲ定例トス但府縣ヲ以テ徵發區トナスモノ、差出場所ハ賦課セラレタル郡區ニ一個所若クハ二個所ヲ設クヘシ

差出場所ハ陸海軍官憲之ヲ指定ス  
第四十條 徵發區ハ徵發令第三十條ニ從ヒ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルノ義務アルヲ以テ之カ爲メニ生シタル費用ハ其區ノ負擔トス可キモノトス

第四十一條 郡區長ハ徵發人馬ノ供給ヲ便宜ニセンカタメ豫メ隣郡區長ト商議シ近傍町村ヲ適宜ニ割合ヒ組合町村ヲ定ムルコトヲ得

第四十二條 賠償金請求ノ月日及ヒ場所ハ供給ヲ受ケシ陸海軍官憲ヨリ之

第四十一條  
明治十六年二月二十八日  
陸軍省令  
第四十條  
近傍町村

第四十二條  
明治十六年二月二十八日  
陸軍省令  
第四十條  
近傍町村

其府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ指示ス可シ  
第四十三條 府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ附錄第六號ノ例ニ準シ賠償金精算書ヲ調製シ海陸軍官憲ヨリ交付ノ受領證書ヲ添ヘ其請求ヲ爲ス可シ但徵發令第三十六條及ヒ第三十八條ニ掲クルモノアルハ其計算書ニ別項ヲ設ケテ差引テ立ツヘシ又評價ニ屬スル件目ノ賠償ハ別途ニ支給スルヲ以テ該件目ニ就テハ評價ノ二字ヲ記載スヘシ

第四十四條 徵發令第三十一條ニ定ムル三個月ノ期限ハ受領證書ヲ交付シタル月ヨリ起算ス但陸海軍官憲ヨリ指示セシ請求ノ月日若クハ場所ヲ其請求者ニ於テ誤リタル爲メ又ハ賠償金計算書ノ違算若クハ不合式ニ依リ推問往復ノ爲メニ消費シタル時日ハ算入セス

第四十五條 徵發令第十二條第二項及ヒ第三項ノ徵發ニ係ルモノヲ終日若クハ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ使用スルトキハ日割ヲ以テ賠償シ其他ノ場合ニ於テハ里程ニ應シテ賠償ス

若シ差出場所ニ集合シタルモノ官ノ都合ニテ不用トナリタルトキハ日割ヲ以シ賠償スヘキモノハ半日分ヲ給シ里程ニ應シテ賠償ス可キモノハ其半額ヲ給ス

第四十六條 徵發物件ノ毀損シタルトキハ徵發令第三十三條ニ從ヒ其使用

主管スル陸海軍官憲ニ届出可シ若シ引渡ヲ受ケタル後毀損ヲ發見セシ

トキハ其引渡チ爲セシ陸海軍官憲ニ届出可シ其官憲既ニ出發セシトキハ  
戸長ニ届出可キモノトス

第四十七條 毀損ノ届出ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ直ニ之ヲ調査シ其毀損果  
シテ使用ヨリ生シタルモノト檢定シタルトキハ其賠償金額ニ就キ供給者  
商議ス可シ若シ調和セザルトキハ評價委員ニ付ス可シ

戸長若シ毀損ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ検査シ其調査書ヲ作り  
供給者ノ請求金額ヲ其關係ノ陸海軍官憲ニ差出ス可シ但調査書ニハ毀損ノ事  
由實況並ニ請求金額ニ係ル自己ノ意見ヲ記ス可シ

第四十八條 徵發令第三十三條ニ掲クル期日ヲ起エタル届出ハ之ヲ受理ス  
可カラズ但變災厄難ニ罹リタルノ確證アルモノハ其變災厄難ヲ免レタル  
時ヨリ期日ヲ算ス可シ

第四十九條 徵發令第三十四條ニ從ヒ府知事縣令ハ其管下市場三ヶ所以上  
ハ前三年間ノ平均價表ヲ第七號雛形ニ依リ調製シ毎年三月三十一日限り  
陸軍省ニ差出スヘシ

第五十條 徵發令第三十五條中平常ノ賃價トアルハ戰時若クハ事變ニ際シ  
テハ勿論演習又ハ行軍ノ際ニ於テモ之カ爲メ臨時ニ騰貴セサル以前ノ賃  
價ヲ言フ  
徵發令中平常ノ賃價トアルモノハ皆此例ニ依ル

第四十八條 明治十六年二月二十八日群馬縣令  
同日陸軍省令  
同日陸軍省令  
同日陸軍省令  
同日陸軍省令  
同日陸軍省令  
同日陸軍省令  
同日陸軍省令  
同日陸軍省令  
同日陸軍省令

第五十一條 徵發令第三十五條及第三十八條ニ掲クル平常ノ賃價雇賃借賃  
ハ郡區長確認ノ上供給ヲ受クル所ノ陸海軍官憲ニ申出ヘシ

其他徵發中ニ揚クル平常ノ賃價損料及ヒ代價ハ戸長ヨリ陸海軍官憲ニ申  
出可シ

第五十二條 徵發令第三十九條ニ從ヒ陸海軍省ニ於テ定ム可キ所ノ賠償金  
ハ兩省同額タル可シト雖モ本條例第三十二條ニ從ヒ臨時ニ食飼ノ定量ヲ  
變換若クハ減少スルニ於テハ其現量ニ從ヒ償賠ス可シ

第五十三條 徵發令第四十二條中航泊實費トハ石炭油脂其他日用消耗品ノ  
航泊中現ニ消耗シタルモノノ代價ニシテ其物品ヲ船舶ニ積入レタルトキ  
現價ニ依リ計算ス可キモノトス

第五十四條 徵發物件ノ毀損其使用ノ爲メニ非サルモノ及ヒ操業者ノ過失  
ニ出ルモノハ賠償セス但船舶ヲ借切トシテ徵用シタルトキ並ニ物件ヲ操  
業者ト分別シテ徵用シタルトキノ毀損ハ總テ之ヲ賠償ス

第五十五條 評價委員ハ陸軍省若クハ海軍官憲二名賠償區ニ從ヒ府縣郡區吏  
員若クハ戸長一名及ヒ其町村ノ住民ニシテ其事件ニ熟達シタル  
モノ若シモノモノナキトキハ他二名若クハ四名ヲ以テ編制シ其評價ハ多數  
ニ依テ決ス  
鐵道會社船舶會社ニ屬スルモノ及ヒ大演習ノ爲メニ生シタル地所ノ損害  
ニ係ル評價委員ハ陸軍省若クハ海軍官憲二名府縣吏員一名及ヒ其事件ニ熟

達シタル人民二名若クハ四名ヲ以テ編制ス

第五十六條 評價委員ニ撰用ス可キ人民ハ其事件ニ關係ナキモノニシテ地方吏員若クハ戸長ニ於テ撰擧ス可キモノトス

其撰擧セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス

第五十七條 其撰擧セラレタルモノニハ陸軍若クハ海軍ヨリ該府縣會議員ト同一ノ旅費日當ヲ給ス可シ

第五十八條 評價ノ爲メ府縣郡區吏員若クハ戸長ノ派出ヲ要スルトキハ其事件ニ關係ノ陸海軍官憲ヨリ之ヲ府知事縣令郡區長若クハ戸長ニ通達ス可シ

第五十九條 評價ノ方法ハ評價ス可キモノノ種類ニ從ヒ精密ニ調査シ其價額ヲ評定スルヲ要トス左ニ地所損害ニ關スル評價ノ一例ヲ掲ク

演習ノ爲メ地所ノ損害ヲ届出タルトキハ評價委員ニ於テ實況ヲ查覈シ

其請求スル所ノ賠償金額ノ當否ヲ審ニシ相當ナルトキハ直ニ之ヲ認可シ若シ其請求ノ金額定マラス或ハ過當ナリト認ムルトキハ實測スヘシ評價委員ハ評價畢ルノ後左ニ掲クル要目ニ准シ所有主毎ニ評價明細書ヲ製ス可シ

一 評價ノ事項及ヒ事由

二 委員ノ氏名

三 地面ノ廣袤ハ何ヲ以テ定メタルヤ何圖面何種類ニ依リタラシメテ算出ハ

如何ナル方法ニ依リタルヤ 其季ノ收穫皆無タルニ依リ其植物ノ前年平均チ其幾分ニ係ル賠償金額ヲ全部收穫ノ前年平均額ヨリ算出シタルカ植物生熟ノ度ニ從ヒ其平均收穫額ニ應シ賠償ス可キ金額中ヨリ幾分ノ手間賃及ヒ肥料ヲ扣除シタルカ又永存ノ草木ニシテ毎年收穫アルモノノ損害ヲ受ケタルトキハ其損害ノ收實ニ止マルトカ又幹ニ係ルモノトニ從ヒ一年若クハ幾年分ノ收穫ヲ見込ミ賠償金額ヲ定メタルカ又

第六十條 評價委員ハ評價明細書ヲ製シ府知事縣令郡區長若クハ戸長ニ交付スヘシ府知事縣令郡區長若クハ戸長ハ其明細書ニ依リ賠償金計算書ヲ作り陸海軍官憲ノ指示スル場所ニ就テ賠償金額ヲ請求ス可シ

附錄 第一號ノ一 徵發書

- 一 宿舍 解署用 將官幾人 上長官幾人  
土官幾人 下士幾人 兵卒幾人
- 右ハ某月某日ヨリ某月某日迄徵用
- 一 庭園 幾四分
- 右、、、
- 一 倉庫 幾坪
- 右、、、
- 一 解船 幾艘
- 右、、、
- 一 何々 、、
- 右、、、

前書ノ通徴用候條其町(村)ニ於テ遲滯ナク供給可致事

年月日

何々長  
官姓名印

某府(縣)某郡(區)

某町(村)戸長役場宛

備考 徴發書ノ料紙ハ美濃野紙タルヘシ

附錄 第一號ノ二

徴發書

一人夫

幾人

右内

幾人ハ某月某日時某地ニ差出シ某地迄徴用  
幾人ハ某月某日時某所ニ差出シ幾日間徴用

一駄馬

幾匹馬士共

右内

幾匹

幾匹

一何々

右内

何々

一何々

右内

何々

前書ノ通徴用候條其郡(區)ニ於テ遲滯ナク供給可致事

年月日

何々長  
官姓名印

某府(縣)

某郡(區)役所宛

附錄 第一號ノ三甲

徴發書

一瀛船

船名

一西洋形風帆船

船名

右某月某日ヨリ借切徴用候條某港ニ於テ遲滯ナク供給可致事

年月日

何々長  
官姓名印

某會社某地店長宛

附錄 第一號ノ乙

徴發書

一將校並同等官

幾名

一下士卒並同等

幾名

一馬	幾匹
一車	幾輛
一荷物畧計	幾噸
右ハ某月某日某港出帆ノ何號船ヲ徵用シ(又ハ某社所有ノ何號船ヲ徵用シ 某月某日某港出帆某港ニ運送爲致候條遲滞ナク供給可致事	
年月日	何々長 官姓名印
附錄 第一號ノ四 某會社某地店長宛	
徵發書	
一上等	幾名内幾名ハ某地迄餘ハ某地迄
一中等	幾名内、、、
一下等	幾名内、、、
一馬	幾匹内幾匹ハ某地迄餘ハ某地迄
一車	幾輛内幾輛ハ、、、、
一荷物畧計	幾噸内幾噸ハ、、、、
右ハ通常(特別)瀛車ヲ徵用シ某月某日時發車ヲ以テ某地ハ運送候條遲滞ナク供給可致事	
年月日	何々長

年月日	鐵道會社某地停車場長宛	官姓名印
附錄 第一號ノ五 徵發書		
一玄米	幾百石	
一精米	幾拾石	
一薪	幾貫目	
一何々	、、	
一何々	、、	
右徵用候條某月某日限り供給可有之事		
年月日	某府(縣)宛	何々長 官姓名印
附錄 第一號ノ六 徵發書		
一某府(縣)某郡(區)某町(村)近傍		
右某月某日演習ノ爲メ徵用候事		
年月日	某町(村)戸長役場宛	何々長 官姓名印



(明治十六年二月二十八日群馬縣  
同日陸軍省指令)

附錄 第二號ノ一

受領證票

一 宿舍

將署用  
士官幾人

將官幾人  
上長官幾人  
下士幾人  
兵卒幾人

右ハ某月某日ヨリ某月某日迄徵用

一 庭園

幾四分

右、

幾坪

一 倉庫

幾艘

右、

一 解船

幾艘

右、

一 何々

幾艘

前書ノ通徴用候也

年月日

某府(縣)某郡(區)

某町(村)戸長役場宛

何々長  
官姓名印

備考

受領證票ハ總テ存留證票ノ式ナルヘシ

附錄 第二號ノ二

受領證票

附錄第二號一表備  
考ニ存留證票トア  
ルハ一葉ノ證票ニ  
受領シテ其中ノ物  
復記シテ折半シテ  
印シテ之ヲ折半シ  
其一ヲ官ニ留メ其  
一ヲ交付スルモノ  
ナク云フ

一人夫

幾人

右内

幾人ハ某月某日時某地ニ差出シ某地迄徵用

幾人ハ某月某日時某所ニ差出シ幾日間徴用

一 駄馬

幾匹馬士共

右内

幾匹、

幾匹、

一 何々

、

右内

何、

一 何々

、

右内

何、

前書ノ通徴用候也

何々長

官姓名印

年月日

某府(縣)

某郡(區)役所宛

附錄 第二號ノ三甲

受領証票

一 瀛船

船名

一 西洋形風帆船

船名

右ハ某月某日ヨリ某月某日迄借切徴用

前書ノ通徴用候也

年 月 日

何々長

官 姓名 印

某會社某地店長宛

附錄 第二號ノ三乙

受領証票

一 將校并同等官

幾名

一 下士卒并同等

幾名

一 馬

幾匹

一 車

幾輛

一 荷物畧計

幾噸

右ハ某月某日某港出帆ノ何號船ヲ某月某日某港迄徴用  
前書ノ通徴用候也

何々長

官 姓名 印

年 月 日

某會社某地店長宛

官 姓名 印

附錄 第二號ノ四

受領証票

一 上等

幾名内幾名ハ某地迄餘ハ某地迄

一 中等

幾名内、、、

一 下等

幾名内、、、

一 馬

幾匹内幾匹ハ某地迄餘ハ某地迄

一 車

幾輛内幾輛ハ、、、

一 荷物畧計

幾噸内幾噸ハ、、、

右ハ某月某日時通常(特別)瀛車徴用  
前書ノ通徴用候也

何々長

官 姓名 印

鐵道會社某地停車場長宛

附錄 第二號ノ五

受領証票

一 玄米

幾百石

一 精米

幾拾石

一 薪

幾貫目

一何々  
一何々  
前書ノ通徴用候也

年月日

何々長

官姓名印

某府(縣)宛

(附録第三號ヨリ第七號迄畧之)

○徴兵

○徴兵令 明治廿二年一月  
法律第一號

朕徴兵令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徴兵令

第一章 總則

- 第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アルモノトス
- 第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役及國民兵役トス
- 第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス
- 現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ

豫備役ハ陸軍ハ四箇年海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 國民兵役ハ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニシテ常備兵役及後備兵

役ニ在ラサル者之ニ服ス

第六條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章 服役

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ歩兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但在營期限ハ一箇年以内トス

第十條 (明治二十二年二月九日宮城縣問合同年三月十二日陸軍省總務局回答) 第十條及第十一條ノ滿十七歳ハ其志願スル年ノ十二月ヲ以テ分界トス

第十一條 (明治二十二年二月九日宮城縣問合同年三月十二日陸軍省總務局回答) 第十一條ノ滿十六歳ハ志願スル年ノ一月ヨリ十二月迄ニ其年齡ニ當ル者ヲ云フ

第九條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得

第十一條 滿十七歳以上滿二十六歳以下ニシテ官立學校帝國大學預科及府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學料程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコトアル可シ

前項ノ一年志願兵ハ特別ノ教育ヲ授ケ現役滿期ノ後二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム

滿十七歳以上二十六歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業者ハ六箇月間陸軍現役ニ服スルコトヲ得其服役中ノ費用ハ當該學校ヨリ之ヲ辨償スルモノトス

前項志願兵ニシテ現役ヲ終リタル者ハ七箇年間豫備役ニ服シ三箇年間後備役ニ服ス

第十二條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サス

第十三條 現役中殊ニ勤務ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十四條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ及毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス

第十五條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集ス平常ニ在テ勤務演習及簡閱點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十六條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集ス

第三章 免役延期及猶豫

第十七條 兵役ヲ免スルハ癘疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十八條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一 體格完全且強壯ナルモ身幹未ダ定尺ニ滿タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第十九條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ拘

（明治二十二年三月十二日）  
 陸軍省總務局同  
 答）  
 令第二十條ノ三箇  
 年ハ同條ノ起算ニ  
 由リ徵集ヲ延期シ  
 タル年ヨリ起算ス  
 （明治二十二年三月十二日）  
 陸軍省總務局同  
 答）  
 令第二十條ノ三箇  
 年ハ同條ノ起算ニ  
 由リ徵集ヲ延期シ  
 タル年ヨリ起算ス  
 （明治二十二年三月十二日）  
 陸軍省總務局同  
 答）  
 令第二十條ノ三箇  
 年ハ同條ノ起算ニ  
 由リ徵集ヲ延期シ  
 タル年ヨリ起算ス

留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス  
 第二十條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確証アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セス  
 第二十一條 第十一條ニ掲クル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十六歲迄ニ止ミ又ハ二十六歲ヲ過クルモ仍ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但第十一條ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス  
 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス二十六歲迄ニ歸朝シ又ハ二十六歲ヲ過キ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但陸軍試驗委員ノ試験ニ及シタル者ハ一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得  
 第二十二條 餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長、助役及收入役ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトナシ  
 法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ  
 第四章 豫備徵員

（明治二十二年三月十二日）  
 陸軍省總務局同  
 答）  
 令第二十條ノ三箇  
 年ハ同條ノ起算ニ  
 由リ徵集ヲ延期シ  
 タル年ヨリ起算ス  
 （明治二十二年三月十二日）  
 陸軍省總務局同  
 答）  
 令第二十條ノ三箇  
 年ハ同條ノ起算ニ  
 由リ徵集ヲ延期シ  
 タル年ヨリ起算ス  
 （明治二十二年三月十二日）  
 陸軍省總務局同  
 答）  
 令第二十條ノ三箇  
 年ハ同條ノ起算ニ  
 由リ徵集ヲ延期シ  
 タル年ヨリ起算ス

第二十三條 抽籤番號ノ順序ニ從ヒ毎年所要ノ現役兵員ニ超過スル壯丁ハ一箇年間ヨリ起算ス豫備徵員トシ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ又ハ其在徵集ノ兵員缺クルトキ之ヲ徵集ス  
 第二十四條 豫備徵員ニシテ其期限内ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム  
 第五章 雜則  
 第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歲ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ書面ヲ以テ其主ニ非サル者本籍ノ市町村長ニ届出可シ但二十歲未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス  
 第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルヲ例トス他ノ徵募區ニ寄留スル者ハ願ニ由リ其區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得  
 第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス  
 第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潛匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス  
 第二十九條 現役年期ノ計算ハ總テ其入營スル年ノ十二月一日ヨリ起算シ

縣同月五年五月廿九日陸軍省令  
 令第九十六號ノ寄附地ニ於テ徵集ノ者ニシテ本籍其ノ他ノ地ニ於テ徵集スルモ於テハ願出ツルニシテカラス  
 寄留地ニ於テ徵集ノ者ニシテ本籍其ノ他ノ地ニ於テ徵集スルモ於テハ願出ツルニシテカラス  
 寄留地ニ於テ徵集ノ者ニシテ本籍其ノ他ノ地ニ於テ徵集スルモ於テハ願出ツルニシテカラス  
 寄留地ニ於テ徵集ノ者ニシテ本籍其ノ他ノ地ニ於テ徵集スルモ於テハ願出ツルニシテカラス  
 寄留地ニ於テ徵集ノ者ニシテ本籍其ノ他ノ地ニ於テ徵集スルモ於テハ願出ツルニシテカラス

豫備役及後備役年期ノ計算ハ其轉役スル年ノ十二月一日ヨリ起算ス第六條ニ依リ延期シタル者モ其起算法亦同シ但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス  
 第六章 罰則  
 第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲サ、ル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
 第七章 附則  
 第三十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年三月一日ヨリ同月十五日迄トス  
 第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ヲ除クノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ニハ當分ニ施行セス  
 第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトトス  
 第三十五條 舊令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服シタル者ハ本令第

ノ外令第三十條又ハ第三十一條ニ據リ處罰セラレタルモノニ限ル  
 第三十六條 明治二十二年八月十一日陸軍省令  
 令第九十六號ノ寄附地ニ於テ徵集ノ者ニシテ本籍其ノ他ノ地ニ於テ徵集スルモ於テハ願出ツルニシテカラス  
 寄留地ニ於テ徵集ノ者ニシテ本籍其ノ他ノ地ニ於テ徵集スルモ於テハ願出ツルニシテカラス  
 寄留地ニ於テ徵集ノ者ニシテ本籍其ノ他ノ地ニ於テ徵集スルモ於テハ願出ツルニシテカラス  
 寄留地ニ於テ徵集ノ者ニシテ本籍其ノ他ノ地ニ於テ徵集スルモ於テハ願出ツルニシテカラス

十一條ニ照シ二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシメ其豫備役二箇年ヲ終リタル者ハ直ニ後備役ニ服セシメ通シテ七箇年トス  
 第三十六條 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム  
 第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム  
 第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ハ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム  
 第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校ノ者ハ該徵員タルコトヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム  
 第四十條 第三十六條第三十七條第三十八條及第三十九條ニ掲クル者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得  
 第四十一條 舊令第八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故六箇年以内ニ止ミタルトキ又ハ六箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

（明治二十四年三月八日）  
陸軍省令  
第四十四條  
（明治二十四年三月八日）  
陸軍省令  
第四十四條  
（明治二十四年三月八日）  
陸軍省令  
第四十四條

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間（明治二十一年十二月一日ヨリ起算ス）ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム  
第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲リタル者亦同シ  
第四十四條 明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム  
第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル  
第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲クル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲クル徵集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ  
前項ノ届出ヲ爲サ、ル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サスシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス可シ

○官立府縣立師範學校ニテ二十二年中卒業ノ生徒徵兵猶豫方  
明治廿二年三月 法律第八號

（明治二十二年三月十六日）  
陸軍省令  
（明治二十二年三月十六日）  
陸軍省令  
（明治二十二年三月十六日）  
陸軍省令

朕官立府縣立師範學校卒業生ノ徵兵ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
官立府縣立師範學校生徒ニシテ明治廿二年中ニ卒業スル者ハ徵兵令第四十一條ニ據ラス直ニ官立公立學校ノ教員ト爲ルコトヲ得其教員ト爲リタル者ハ同令第三十七條ニ據リ處分スヘシ  
○徵兵令中餘人ヲ以テ代フヘカラサル官吏認可手續  
明治廿二年二月 閣令第六號

各官廳

明治二十二年法律第一號徵兵令第二十二條ニ當ル餘人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏ハ豫メ其官廳ヨリ内閣ニ具狀シ認可ヲ請フ可シ

○陸軍輜重輸卒現役期限及入營期限  
明治廿二年三月 勅令第三十七號

朕陸軍輜重輸卒現役期限及入營期限ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
陸軍輜重輸卒ノ現役期限ハ一箇年トシ三期ニ分チ入營セシム其第一期ハ十二月一日第二期ハ四月一日第三期ハ八月一日トス  
疾病犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ次期ニ於テ入營セシム其補缺員ハ次期入營ス可キ者ヲ繰上ケ其月ノ十日迄ニ入營セシム但第三期ニ在テハ

豫備徵員ヲ以テ補缺ス

○舊徵兵令ニ交渉ノ件取扱方明治廿二年三月 陸軍省訓令甲第三號

師團司令部

北海道廳府縣沖繩縣ヲ除ク

本年法律第一號ヲ以テ徵兵令改正ニ付テハ舊徵兵令ニ交渉ノ件取扱方左ノ通定ム

- 第一項 左ニ掲クル者ハ戶長ニ於テ徵兵事務條例施行細則第一條ニ依リ壯丁名簿ヲ作り島司又ハ郡區長ニ差出サシム可シ
  - 一 新令第四十條第四十一條ニ當リ徵集ニ應スヘキ者
  - 二 舊令第十八條第五項第六項ニ當リ徵集猶豫中ノ者
  - 三 舊令第十七條ニ當ル者ニシテ其資格ヲ失ヒ第十八條第五項第六項ヲ除ク第十九條第二十一條ニ當ル者ニシテ其事故止ミ本年徵集ニ應スヘキ者
  - 四 新令施行前逃亡失踪其他ノ事故ニテ翌年回シト爲リタル者
- 第二項 前項ノ壯丁名簿ハ島司郡區長ヨリ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ提出セシム可シ
- 第三項 新令第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條及第四十一條ニ當リ徵收延期又ハ徵收猶豫中ノ者ハ別ニ壯丁名簿ヲ作ルヲ要セス從前ノ

シ徵集猶豫名簿ヲ島廳又ハ郡區役所ニ備置キ異動ヲ生スル者アルトキハ訂正セシム可シ

○徵兵事務條例明治廿二年二月 勅令第十三號

朕徵兵事務條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
徵兵事務條例

第一章 徵兵區

- 第一條 徵兵區ハ師管旅管及大隊區又ハ警備隊區ノ區域ニ從フ
- 第二條 大隊區及警備隊區ハ更ニ之ヲ徵募區ニ分ツ
- 第三條 徵募區ハ一郡又ハ一市ヲ以テ一區ト爲ス
  - 一 市ニシテ二大隊區ニ分屬スルモノハ各別ニ一區ト爲ス
  - 數郡ニ一郡役所ヲ置クモノハ數郡ヲ併セ一區ト爲ス其島廳ヲ置クモノ亦同シ
- 第四條 常備步兵各聯隊ノ兵員ハ其旅管内最寄ニ大隊區ヨリ徵集スルヲ例トシ不足スルトキハ同管内他ノ大隊區ヨリ補充ス其他ノ兵員ハ其師管ヨリ徵集ス
- 近衛步兵隊及騎兵隊ノ兵員ハ各師管ヨリ其他ノ兵員ハ第一師管ヨリ徵集ス



警備隊ノ兵員ハ其警備隊區ヨリ徵集ス  
海軍兵員ハ各師管内沿海及島嶼ヲ包括スル大隊區ヨリ徵集ス

第二章 徵兵官

第五條 徵兵官ハ總理徵兵官師管徵兵官旅管徵兵官大隊區徵兵官及警備隊區徵兵官トス

第六條 總理徵兵官ハ內務大臣及陸軍大臣ヲ以テ之ニ充テ全國徵兵ノ事ヲ統轄ス

第七條 師管徵兵官ハ師管內府縣毎ニ師團長及府縣知事ヲ以テ之ニ充テ師團長ヲ首座トシ其管內府縣徵兵ノ事ヲ統轄ス

第八條 旅管徵兵官ハ旅管內府縣毎ニ旅團長及府縣書記官ヲ以テ之ニ充テ旅團長ヲ首座トシ其管內府縣徵募事務ヲ執行ス

第九條 大隊區徵兵官ハ大隊區內徵募區毎ニ大隊區司令官及島司若クハ郡市長ヲ以テ之ニ充テ警備隊區徵兵官ハ警備隊司令官及島司若クハ郡市長ヲ以テ之ニ充テ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ首座トシ其區内徵募準備事務ヲ執行ス

第十條 毎年徵募事務及徵募準備事務行中ハ陸軍二等軍醫正一名並府縣徵兵參事員四名ヲ以テ旅管徵兵委員ヲ組織シ又陸軍一二三等軍醫一名並郡市徵兵參事員又ハ嶋嶼徵兵參事員各四名ヲ以テ大隊區徵兵委員又ハ警備

隊區徵兵委員ヲ組織シ第十四條第十五條ノ事務ヲ掌ラシム

第十一條 府縣徵兵參事員ハ府縣常置委員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム  
第十二條 郡市嶋嶼徵兵參事員ハ其郡市嶋嶼内ノ選舉ヲ以テ之ヲ定ム  
郡市嶋嶼徵兵參事員ノ選舉人被選舉人資格選舉ノ方法及任期ハ總テ府縣會議員ノ例ニ依ル但被選人ハ其郡市嶋嶼内ニ現任ノ者ニ限ル

第十三條 府縣徵兵參事員及郡市嶋嶼徵兵參事員ハ互ニ兼ヌルヲ得ス  
第十四條 陸軍二等軍醫正ハ旅管內徵兵身體檢查ノ事務ヲ掌リ陸軍一二三等軍醫ハ專ラ身體ノ檢查ニ從事ス

第十五條 府縣郡市及嶋嶼徵兵參事員ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル事件並徵兵令第二十八條ニ關スル事件ヲ審議シ意見ヲ徵兵官ニ具申スルヲ任トス但徵兵官ノ裁決ニ付可否ヲ議スルノ權ナキモノトス

第十六條 第十條ニ掲グル徵兵委員ノ外旅團副官一名府縣屬若干名地方徵兵醫員一名ヲ以テ旅管徵兵事務員トシ大隊區書記又ハ警備隊書記各一名島嶼附府縣屬又ハ郡市書記各一名地方徵兵醫員若干名ヲ以テ大隊區徵兵事務員又ハ警備隊區徵兵事務員トス

第十七條 旅團副官府縣屬大隊區書記警備隊書記島嶼附府縣屬及郡市書記ハ徵兵署ノ庶務ニ從事ス  
第十八條 地方徵兵醫員ハ府縣知事ノ選ヲ以テ之ヲ命ス陸軍醫官ノ指揮ヲ

(明治二十六年三月三十日  
陸軍省令第六十六號) 依  
條例第一十六條ニ  
准シ旅管ハ依  
據兵署ノ事務ヲ  
理スルニ止マルモ  
郡市書記ノ事務上  
知事ノ見込ヲ以テ  
各大隊區徵兵署又

ハ検査所へ出頭セシムルハ差支ナシ

受ケ身體検査ノ事ヲ補助ス

第三章 配賦

第十九條 毎年徵集ス可キ新兵ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 陸軍大臣ハ第十九條ノ勅令ニ基キ近衛新兵及海軍新兵ノ要員ヲ

各師管ニ配賦ス

第二十二條 師團長ハ新兵ノ要員ヲ各旅管ニ旅團長ハ之ヲ各大隊區ニ大隊

區司令官ハ之ヲ各徵募區ニ配賦ス

第二十二條 新兵ノ配賦ハ壯丁ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 徵募準備

第二十三條 町村長ハ毎年徵兵令第二十五條ノ屆書ヲ戶籍簿ニ照較シ壯丁

名簿ヲ作り三月一日迄ニ島司又ハ郡長ニ差出シ島司郡長ハ點檢ノ後之ヲ

一徵募區ニ取纏メ前年假決ノ諸名簿ト共ニ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵

兵署ニ提出ス可シ

市長ハ前項ノ例ニ依リ壯丁名簿ヲ作り前年假決ノ諸名簿ト共ニ之ヲ大隊

區徵兵署ニ提出ス可シ

第二十四條 毎年徵募準備事務執行ノトキハ各徵募區ニ大隊區徵兵署又ハ

警備隊區徵兵署ヲ設ク

土地廣潤壯丁多數ノ徵募區ニ在テハ數箇ノ徵兵検査所ヲ設クルコトヲ得

第二十五條 大隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ嶋司郡市長ニ協議シ徵兵署

及検査所巡回日割ヲ定メ之ヲ旅管徵兵官ニ申報スヘシ

嶋司郡市長ハ検査ノ日時徵兵署及検査所設置ノ場所ヲ豫メ其管内ニ告示

ス可シ

第二十六條 兵役ノ適否ヲ定ムル爲メ大隊區徵兵署又ハ警隊區徵兵署及檢

査所ニ於テ壯丁ノ身體検査ヲ行フ其検査ハ徵兵委員ノ面前ニ於テスルモ

ノトス

第二十七條 大隊區司令官又ハ警備隊司令官ハ壯丁ノ身體検査ノ事ヲ監督

シ兵種ノ選定ニ任ス

第二十八條 島司郡市長ハ徵集延期及徵集猶豫ニ關スル書類ノ調査及事實

ノ審覆ニ任ス

第二十九條 壯丁ノ身體検査終ルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官

ハ徵兵検査名簿徵集延期名簿及徵集猶豫名簿ヲ作ル可シ

第三十條 大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ徵集ヲ延期シ又ハ徵集

ヲ猶豫ス可キモノト裁決シタルトキハ各其證書ヲ附與ス

第三十一條 徵募準備事務終ルノ後大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ檢

査名簿其他終決ヲ受ク可キ書類ヲ取纏メ旅管徵兵官ニ差出ス可シ但徵集

延期及徵集猶豫ニ屬シタル者ハ其人員ヲ旅管徵兵官ニ報告シ其名簿ハ島

司郡市長之ヲ保管ス可シ

第五章 徵募

第三十二條 毎年徵募事務執行ノトキハ旅管内府縣毎ニ旅管徵兵署ヲ設ク

第三十三條 旅團長ハ府縣書記官ニ協議シ徵兵署巡回日割ヲ定メ之ヲ師管

徵兵官ニ申報シ又之ヲ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ達ス可シ

府縣書記官ハ抽籤ノ日時及徵兵署設置ノ場所ヲ島司又ハ郡市長ニ達シ島

司郡市長ハ豫メ之ヲ管内ニ告示ス可シ

第三十四條 身體検査ニ合格シタル壯丁ハ徵集順序ヲ定ムル爲メ徵募區毎

ニ體格ノ等位及兵種ヲ分チ旅管徵兵署ニ於テ抽籤ヲ行フ

抽籤ハ旅管徵兵委員及大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ面前ニ於テ抽

籤總代人ノ之ヲ爲スモノトス

抽籤總代人ハ籤丁ノ選チ以テ徵募區毎ニ二名若クハ三名ヲ出スモノトス

第三十五條 島司郡市長ハ總代人ノ抽キタル籤番號ノ順序ニ依リ抽籤名簿

二本ヲ作り其一本ハ之ヲ旅管徵兵官ニ差出シ他ノ一本ハ之ヲ保管ス可シ

第三十六條 抽籤終ルトキハ旅管徵兵官ハ當籤番號ノ順序ニ從ヒ新兵徵募

ノ處分ヲ爲シ其他ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ヨリ差出シタル書

類ニ就キ終決ノ處分ヲ爲シ新兵名簿豫備徵員名簿免役名簿及國民兵編入

名簿ヲ作ル可シ

第三十七條 旅管徵兵署ニ於テ終決ノ處分ヲ爲シタル者ニハ各其證書ヲ附與ス

第三十八條 徵募事務ルトキハ旅團長ハ旅管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作

リ師團長ニ差出シ又新兵名簿ヲ各隊ニ交付シ抽籤名簿及豫備徵員名簿ヲ

大隊區司令官ニ交付ス可シ

近衛新兵名簿ハ近衛都督ニ海軍新兵名簿ハ鎮守府司令長官ニ送致ス可シ

免役名簿及國民兵編入名簿ハ府縣廳ニ備置ク可シ

第三十九條 師團長ハ師管徵兵事務報告書及徵兵表ヲ作り陸軍大臣ニ差出

シ陸軍大臣ハ全國徵兵表ヲ作り奏上ス可シ

第六章 裁決

第四十條 裁決ハ分テ假決及終決ノ二種トス

第四十一條 假決ハ徵集延期及徵集猶豫ノ事ヲ裁決シ終決ハ新兵徵募豫備徵

員及國民兵編入並免役ノ事ヲ裁決ス

第四十二條 假決ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官之ヲ爲シ終決ハ旅管

徵兵官之ヲ爲ス

第四十三條 壯丁若クハ其家族ニ於テ徵兵令第二十條第二十一條第二十八

條ニ關スル大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ旅

管徵兵官ニ旅管徵兵官ノ裁決ニ不服アルトキハ師管徵兵官ニ師管徵兵官

ノ裁決ニ不服アルトキハ總理徵兵官ニ訴願スルコトヲ得但訴願ノ爲メニ裁決ノ執行ヲ停止セス  
本條訴願ハ裁決書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲ス可シ其期日ヲ過クルモノハ受理セス

第四十四條 徵兵官ノ裁決ニ對シ訴願スル者ハ其裁決ヲ爲シタル徵兵官ニ其由ヲ届出可シ

第四十五條 第四十三條ノ訴願ヲ爲サントスル者ハ其願書ニ同徵募區内其年徵集ニ應ス可キ壯丁ノ戸主三名ノ保證書ヲ添フ可シ

第四十六條 徵兵官ノ裁決ニ對シテハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許サス

第七章 新兵

第四十七條 新兵入營期日ハ毎年十二月一日トス但疾病犯罪其他ノ事故ニ由リ十二月一日ニ入營シ難キ者ハ同月三十一日迄ニ入營セシム

警備隊諸兵及輜重輸卒ノ入營期日ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第四十八條 新兵入營ノトキハ先ツ大隊區司令部若クハ便宜ノ地ニ召集シ其人員ノ多少ニ應シ大隊區副官若クハ書記ヲシテ入營地ニ引率セシム但新兵五人未滿ナルトキハ引率セシムルヲ要セス

近衛新兵及海軍 兵ハ人員ノ多少ニ拘ハラズ大隊區書記ヲシテ其集合地ニ引率セシメ新兵受領委員ニ交付スルモノトス但大隊區書記出發後到着

シタル者ハ直ニ入營地ニ單行セシム

第四十九條 新兵入營ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲メ入營ノ延期ヲ願フ者アルトキハ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ於テ十四日以内ノ延期ヲ許ス可シ

第五十條 新兵入營前ハ轉籍ノ爲メニ所屬ノ隊籍ヲ變更セス但師團ノ諸兵ニシテ師管ヲ異ニスルトキハ此限ニ在ラス

第五十一條 新兵入營前死亡シ若クハ疾病犯罪其他ノ事故ニ由リ十二月三十一日迄ニ入營シ難キ者ト認マル者アルトキハ其徵募區ヨリ同兵種豫備徵員ヲ抽籤番號ノ順序ニ從ヒ徵集シ同月同日迄ニ入營セシム若シ其徵集區ヨリ徵集スルコト能ハサルトキハ大隊區内地ノ徵募區ヨリ補フ其配賦ハ各徵募區豫備徵員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム

第五十二條 新兵入營前癘疾又ハ不具ト爲リ永久兵役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ旅團長ニ於テ兵役ヲ免ス

第五十三條 新兵入營前徵兵令第二十條ニ當ルヘキ事故ノ生スルトキハ本人ノ願ニ由リ旅團長ニ於テ徵集ヲ延期ス

其願書ニハ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ之ニ同徵募區内新兵ノ戸主二名ノ保証書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヲ經テ旅團長ニ差出ス可シ  
第五十四條 新兵入營前轉籍セントスル者ハ監視區長ニ届出可シ但監視區

第五十四條  
明治二十二年六月五日  
陸軍省

合同月十一日陸軍省總務局回答  
 第五十八條ノ轉籍及  
 相續人又ハ分家スル  
 モ含ハス

ヲ異ニスルトキハ轉籍後七日以内更ニ轉籍地監視區長ニ届出可シ  
 本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス  
 第五十五條 新兵入營前寄留若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲サントスル者ハ監視區長ニ届出可シ

第八章 豫備徵員

第五十六條 豫備徵員ヲ徵集スルニハ抽籤番號ノ順序ニ從フ其配賦ノ法ハ豫備徵員ノ總數ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ定ム  
 第五十七條 豫備徵員他ノ徵募區ニ轉籍スルトキハ新舊住地徵募區最高ノ抽籤番號ヲ率トシ比例ヲ以テ相當番號ノ上位ニ列セシム  
 第五十八條 豫備徵員轉籍セントスルトキハ監視區長ニ届出可シ但監視區ヲ異ニスルトキハ轉籍後十四日以内更ニ轉籍地監視區長ニ届出可シ  
 本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス  
 第五十九條 豫備徵員ハ徵募年ノ十二月三十一日迄ハ監視區長ノ認可ヲ受ケスニテ寄留若クハ七日以上ノ旅行ヲ爲スコトヲ得ス其期限後ニ於テハ往先ヲ詳ニシ監視區長ニ届出可シ其復歸シタルトキ亦同シ  
 本條ニ違背シタル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第九章 雜則

第六十三條  
 (明治二十二年四月九日陸軍省令) 同月九日陸軍省令 第六十三條ノ出願期限後徵兵令ノ第四十條ニ當ルモ  
 區ニシテ他ノ徵募  
 セントスルモノハ  
 實際取扱上モハ  
 キ限リハ右期限ニ  
 拘ハラズ許可シ  
 カラス

第六十條 徵兵令第十條ニ依リ現役ニ服センコトヲ志願スル者ハ其願書ニ戸主若クハ家族ノ承認書ヲ添ヘ十二月一日前自己ノ服役セント欲スル軍隊又ハ鎮守府ニ願出テ許可ヲ受ケ可シ  
 第六十一條 前條服役ノ許可ヲ受ケタル者ハ入營前本籍地ノ市町村長ニ届出可シ

第六十二條 徵兵令第二十條ニ當ル者ハ同徵募區内其ノ年ノ徵集ニ應ス可キ壯丁ノ戸主二名ノ保證書第二十一條第一項ニ當ル者ハ學校長ノ證明書同條第二項ニ當ル者ハ公使又ハ領事ノ證明書ヲ以テ三月一日迄ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ願出可シ  
 其願書ニハ町村長ノ奧書證印ヲ受ク可キモノトス

第六十三條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應セント欲スル者ハ一月三十一日迄ニ本籍地ノ島司又ハ郡市長ニ願出可シ  
 島司又ハ郡市長ニ差出ス願書ニハ本籍地町村長ノ奧書證印ヲ受ク可キモノトス

島司郡市長其願ヲ許可シタルトキハ其壯丁名簿ヲ添ヘ本人寄留地ノ島司郡市長ニ通知ス可シ

第六十四條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ身體ノ検査ヲ受ケ可キ者及一年志願兵出願中ノ者ハ書面ヲ以テ検査當日迄ニ島司又ハ郡市長ニ届出可シ其疾

病傷痕ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フ可シ

島司又ハ郡長ニ差出ス届書ニハ町村長ノ奥書證印ヲ受ク可キモノトス  
本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十五條 疾病傷痕或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ書面ヲ以テ入營當日迄ニ監視區長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ届出可シ其疾病傷痕ノ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添フ可シ

其届書ハ市町村長ノ奥書證印ヲ受ク可キモノトス

本條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第六十六條 徵兵署及徵兵検査所ノ諸費、壯丁及抽籤總代人ノ旅費、新兵入營ノ旅費、府縣郡市島嶼徵兵參事員ノ手當金旅費地方徵兵醫員ノ給料旅費ハ官給ス

第六十七條 現役中疾病或ハ傷痕ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ近衛都督師團長又ハ鎮守府司令長官ニ於テ兵役ヲ免ス其一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ豫備役ニ編入シ現役年期ヲ通シテ七箇年間服役セシム

第六十八條 現役中徵兵令第二十條ニ當ル可キ事故ノ生スルトキハ其家族ノ願ニ由リ近衛都督師團長又ハ鎮守府司令長官ニ於テ現役ヲ免シ豫備役ニ編入ス但現役年期ヲ通シテ七箇年間服役セシム  
其願書ニ市町村長ノ奥書證印ヲ受ク之ニ同徵募區内現役兵ノ戸主二名ノ

保證書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊司令官及旅團長ヲ經テ近衛都督師團長又ハ鎮守府司令長官ニ差出ス可シ

第十章 附則

第六十九條 北海道廳管下函館江差福山其他嶋嶼ニ於テ本條例中ノ條規ヲ實施スルコト能ハサルトキハ師團長地方長官協議ノ上適宜ノ方法ヲ設ク  
ルコトヲ得

第七十條 徵兵令ヲ施行セサル地ニ寄留ノ者ハ同令第二十六條後段ノ例ニ準シ寄留地最寄ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得

第七十一條 徵兵令ヲ施行セサル地ヨリ施行ノ地ニ轉籍シタル者ハ其年又ハ翌年ノ徵集ニ應セシム但年齡二十六歳ヲ過クル者ハ此限ニ在ラス

第七十二條 本條例中市長ノ職務ハ市制ヲ實施スル迄ハ區長ニ於テ町村長ノ職務ハ町村制ヲ實施スル迄ハ戸長ニ於テ行フ可シ

第七十三條 第三條ノ徵募區ハ市制ヲ實施スル迄ハ區ノ境域ニ依ル

第七十四條 明治二十二年ニ限り第二十三條ノ壯丁名簿差出期限及第六十二條ノ願出期限ハ四月十五日迄トシ第六十三條ノ願出期限ハ三月一日ヨリ同月十五日迄トス

○徵兵事務條例中徵募區及市長市書記市徵兵參

事員ニ關スル件 明治廿二年五月 勅令第六十四号

陸徴兵事務條例中徴募區及市長市書記市徴兵參事員ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

徴兵事務條例第三條ノ徴募區ハ東京市京都市大阪市ニ於テハ區ヲ以テ徴募區ト爲ス

徴兵事務條例中市長及市書記ノ職務ハ東京市京都市大阪市ニ於テハ區長若クハ區書記ニ於テ之ヲ行フ

東京市京都市大阪市ニ於テハ市徴兵參事員ヲ置カス區ニ區徴兵參事員ヲ置キ市徴兵參事員ノ職務ヲ掌ラシム其人員選舉人被選舉人資格選舉ノ方法及任期ハ市徴兵參事員ニ同シ區徴兵參事員ノ選舉月日及選舉開會並投票函閉鎖ノ時刻ハ明治二十二年ニ限リ府知事ヨリ選舉開會五日以前ニ告示スルコトヲ得

○歩兵聯隊ノ兵員ヲ徵集スヘキ聯合大隊區ヲ定

明治廿二年五月 陸軍省令第十一号

徴兵事務條例第四條ニ依リ歩兵聯隊ノ兵員ノ徵集ス可キ聯合大隊區左ノ通定ム

歩兵第一聯隊	麻布大隊區	橫濱大隊區
歩兵第十五聯隊	高崎大隊區	長野大隊區
歩兵第二聯隊	佐倉大隊區	水戸大隊區
歩兵第三聯隊	本郷大隊區	宇都宮大隊區
歩兵第四聯隊	仙臺大隊區	福島大隊區
歩兵第十六聯隊	新發田大隊區	柏崎大隊區
歩兵第五聯隊	青森大隊區	盛岡大隊區
歩兵第十七聯隊	秋田大隊區	山形大隊區
歩兵第六聯隊	名古屋大隊區	津 大隊區
歩兵第十八聯隊	豊橋大隊區	静岡大隊區
歩兵第七聯隊	金澤大隊區	富山大隊區
歩兵第十九聯隊	岐阜大隊區	福井大隊區
歩兵第八聯隊	大阪大隊區	和歌山大隊區
歩兵第九聯隊	大津大隊區	京都大隊區
歩兵第十聯隊	姫路大隊區	岡山大隊區
歩兵第二十聯隊	神戸大隊區	宮津大隊區
歩兵第十一聯隊	廣島大隊區	山口大隊區
歩兵第二十一聯隊	尾ノ道大隊區	松江大隊區

- 歩兵第十二聯隊 丸龜大隊區 徳島大隊區
- 歩兵第二十二聯隊 松山大隊區 高知大隊區
- 歩兵第十三聯隊 熊本大隊區 宮崎大隊區
- 歩兵第二十三聯隊 八代大隊區 鹿兒島大隊區
- 歩兵第十四聯隊 小倉大隊區 佐賀大隊區
- 歩兵第二十四聯隊 福岡大隊區 長崎大隊區

○地方徴兵醫員採用方明治廿二年三月 陸軍省訓令甲第四號

北海道廳 府縣沖繩縣ヲ除ク

徴兵事務條例第十六條ノ大隊區又ハ警備隊區徴兵署事務員タル地方徴兵醫員ハ一徴募區ニ四名ヲ採用ス可シ

○徴兵事務條例施行細則明治廿二年二月 陸軍省令第一號

徴兵事務條例施行細則左ノ通定ム

徴兵事務條例施行細則

第一條 條例第二十三條ノ壯丁名簿ハ附録第一様式ニ依リ之ヲ作り一市一町村ヲ一冊ト爲シ冊尾ニ其人員ノ總計ヲ記シ市町村長之ニ署名押印スヘシ

第二條 徴兵令第七條及第二十五條但書ニ當ル者ハ市町村長之ヲ調査シ人名書ヲ作り壯丁名簿ニ添附ス可シ

第三條 條例第二十五條ノ徴兵署及徴兵検査所巡回日割ヲ定ムル爲メ嶋司郡市長ハ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ヲ調査シ其人員ヲ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ報告ス可シ

第四條 大隊區徴兵署警備隊區徴兵署及徴兵検査所ハ嶋司郡市長ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ大隊區司令官又ハ警備隊司令官到着ノ上之ヲ開設ス可シ

徴兵検査所ハ大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官豫メ旅管徴兵官ヲ經テ師管徴兵官ノ認可ヲ受ケ一箇所概シ壯丁百人以上一日間ニ往復ヲ爲シ得ル里程内ノ地ニ設ク可シ

第五條 大隊區徴兵署警備隊區徴兵署及徴兵検査所巡回日割既ニ定マルトキハ嶋司郡市長ハ其徴募區内ニ於テ毎日検査ヲ受ク可キ壯丁ノ順序ヲ定メ之ヲ壯丁ニ達シ當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ壯丁ヲ引繼メ徴兵署又ハ徴兵検査所ニ出頭セシム可シ

第六條 壯丁ノ身體検査ヲ行フトキハ嶋廳附府縣屬郡市書記ハ壯丁ヲ呼出シ軍醫ハ徴兵検査規則ニ依リ身體ヲ検査シ體格ノ等位其他所要ノ件ヲ壯丁名籍及前年假決ノ諸名簿ニ記入シ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ニ差



出ス可シ

體格ノ等位ハ甲乙丙丁ノ四種ニ分チ其甲乙兩種ヲ合格トシ丙種ヲ徵集延期トシ丁種ヲ不合格トス

第七條 身體檢査ヲ行フニ當リ壯丁ヲシテ裸體ナラシムルトキハ他メテ別室若クハ隔障内ニ於テス可シ

第八條 身體檢査ノ際現役ニ服センコトヲ志願スル者アルトキハ大隊區徵兵官ハ本人ノ身元ヲ調査シ其景況書ヲ添ヘ旅管徵兵官ニ具申ス可シ其志願者ハ體格甲種ニシテ身元確實ト認ムル者ハ旅管徵兵官ニ於テ之ヲ許可スルコトヲ得

第九條 身體檢査終ルノ後大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ合格者ヲシテ抽籤總代人ヲ選ハシメ其人名ヲ旅管徵兵官ニ報告ス可シ

第十條 徵兵令第十八條第十九條及第二十條ニ依リ徵集延期ニ屬シ第二十條ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル者ハ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署ニ於テ附錄第二樣式ニ依リ徵集延期證書徵集猶豫證書ヲ作り市ハ市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ附與セシム可シ

徵兵令第二十條第二十一條ノ願ヲ許可セサル者ニハ願書ニ裁決ノ旨趣ヲ記載シ前項ノ例ニ依リ本人ニ附與ス可シ

第十一條 陸軍諸兵ニ編入ス可キ者ハ左ノ項目ニ依リ之ヲ選フ可シ

一 歩兵ハ身體強健ニシテ能ク勞力及遠足ニ堪ニル者

二 騎兵ハ成ル可ク馬匹ノ使用ニ慣レ體格ハ輕捷ニシテ筋肉肥滿ニ過キサル者

三 砲兵ハ體力強大ニシテ視力清明ナル者

四 工兵ハ諸職工中殊ニ工兵ノ作業ニ適當シ停力アル者

五 輜重兵及輜重輸卒ハ成ル可ク馬匹ノ使用ニ慣レ且停力アル者

六 職工ハ現ニ其職ニ從事シ又ハ嘗テ其職ニ從事セシ者

近衛諸兵ハ甲種合格ニシテ品行方正ノ者ヲ選フ可シ

第十二條 海軍兵ニ編入ス可キ者ハ左ノ項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ選フ可シ

一 海員免狀ヲ受有シ海員ノ業ニ從事スル者

二 漁車或ハ諸製造所等ニ於テ機關手又ハ火夫ノ業ニ從事スル者

三 現ニ前項ノ職業ニ從事セスト雖モ一箇年以上嘗テ之ニ從事セシ者

四 舟夫

五 漁夫

職工及雜卒ハ各其勤務ニ適當ノ者ヲ選フ可シ

第十三條 條例第二十九條ノ徵兵檢査名簿徵集延期名簿及徵集猶豫名簿ハ壯丁名簿及前年假決ノ諸名簿ヲ以テ編綴ス可シ但徵兵檢査名簿ハ種類ヲ分チ之ヲ編綴シ冊尾ニ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官署名押印シ旅管

徵兵官ニ差出ス可シ

公權停止中若クハ逃亡失踪等ノ爲メ其年徵集スルコト能ハサル壯丁ハ徵集延期名簿ニ一年志願兵出願中及認可ヲ受ケタル者ハ徵集猶豫名簿ニ編入シ各假決ノ區畫ニ其事由ヲ記スルモノトス

第十四條 大隊區ニ於テ師團歩兵聯隊ノ配賦人員ヲ充スコト能ハサルトキハ大隊區司令官ヨリ之ヲ旅團長ニ具狀シ旅團長ハ他ノ大隊區同兵種ノ人員ヲ調査シ殘餘アルトキハ先ツ之ヲ以テ其缺ヲ補ヒ仍ホ不足スルトキ他ノ最寄二箇ノ大隊區ニ配賦ス可シ其配賦ノ法ハ條例第二十二條ノ例ニ依ル

第十五條 徵兵令第二十條ニ當リ其事故第三年ニ至ルモ仍ホ止マサル者及同令第二十八條ニ當ル者アルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ郡市徵兵參事員又ハ嶋嶼徵兵參事員ヲシテ其當否ヲ審議セシメ之ニ意見書ヲ付シ旅管徵兵官ニ差出ス可シ

第十六條 徵兵令第二十一條ニ當ル者ハ徵集猶豫ノ期限間身體ノ検査ヲ行ハス

第十七條 疾病傷痍又ハ犯罪等ノ爲メ身體検査ニ出頭セサル者アルトキハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ハ其狀況ニ由リ他ノ徵募區ノ大隊區徵兵署又ハ警備隊區徵兵署若クハ徵兵検査所若クハ旅管徵兵署ニ出頭セシ

メ若クハ翌年ノ検査ニ回ス可シ但疾病傷痍ノ者ハ時宜ニ由リ其家ニ就キ検査ス可シ

第十八條 旅管徵兵署ハ府縣書記官ニ於テ適當ノ家屋ヲ選定シ旅團長到著ノ上之ヲ開設ス可シ

第十九條 抽籤施行ニ先ツ旅團徵兵署ニ於テ合格者ノ人員ヲ調査シ徵募區毎ニ兵種及甲乙兩種ニ分チ籤札ヲ作ル可シ

籤ノ番號ハ合格者ノ數ニ應シ第一番ヨリ起スヲ例トス然レトモ抽籤ノ列ニ加ヘサル者アルトキハ現役ニ編入スルノ順序ヲ定ムル爲メ之ニ首位ノ番號ヲ附著シ其番號ヨリ籤番號ヲ起ス可シ

第二十條 籤札ハ附錄第三様式ニ依リ之ヲ作り籤箱ニ納レ之ヲ封鎖シ旅管徵兵委員大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官列席ノ前ニ置キ其封ヲ披キ島廳附府縣屬郡市書記籤丁名簿ノ順序ニ氏名ヲ呼ビ抽籤總代人ニ之ヲ抽カシム

第二十一條 條例第三十五條ノ抽籤名簿ハ一貫ノ番號ヲ記シ置キ總代人ノ抽ク毎ニ其住所氏名ヲ相當番號ノ下ニ記入ス可シ

第二十二條 抽籤總代人ハ抽ク所ノ番號ヲ高聲ニ呼ビ其籤札ヲ島廳附府縣屬又ハ郡市書記ニ渡シ島廳附府縣屬郡市書記ハ之ヲ籤丁名簿氏名ノ頭ニ貼付シ割印ヲ押シ一人毎ニ之ヲ截チ切り總代人ニ交付ス可シ

第二十三條 検査合格者ハ左ニ掲クル順序ニ從ヒ現役兵ニ編入シ其要員ニ

超過スル者ハ豫備徴員ニ編入ス

一 甲種合格者ニシテ徴兵令第二十八條ニ當ル者二人以上ナルトキハ年齢ノ順序ニ從テ第二項第三項第四項第五項第六項亦シニ依リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徴

二 甲種合格者ニシテ徴兵令第二十一條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徴集スル者

三 甲種合格者ニシテ現役志願ノ者

四 甲種合格者ニシテ抽籤ノ者番號ノ順序ニ從テ第七項亦同シ

五 乙種合格者ニシテ徴兵令第二十八條ニ當ル者

六 乙種合格者ニシテ徴兵令第二十一條ニ當リ抽籤ノ法ニ依ラスシテ徴集スル者

七 乙種合格者ニシテ抽籤ノ者

第二十四條 抽籤終ルトキハ旅管徴兵署ニ於テ附録第四第五第六第七様式

ニ依リ新兵證書豫備徴員證書國民兵證書及免役證書ヲ作り市ハ市長ヨリ本人ニ附與シ郡又ハ島嶼ニ在テハ町村長ヲシテ本人ニ附與セシム可シ  
徴兵令第二十條ニ依リ國民兵編入ノ願ヲ許可セル者ニハ願書ニ裁決ノ旨趣ヲ記載シ又同令第二十八條ニ依リ徴集スル者ニハ別ニ其裁決書ヲ作り前項ノ例ニ依リ本人ニ附與ス可シ

第二十五條 條例第三十六條ノ新兵名簿豫備徴員名簿免役名簿及國民兵編

入名簿ハ徴兵検査名簿ヲ以テ編綴シ種類ヲ分チ冊尾ニ旅管徴兵官署名押印ス可シ

第二十六條 旅管徴兵署ニ於テ抽籤名簿ニ基キ新兵監視名簿及豫備徴員監視名簿ヲ作り各監視區長ニ交付ス可シ

第二十七條 條例第二十八條ノ徴兵表ハ附録第八様式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第二十八條 壯丁名簿進達後検査前名簿ニ關スル異動ヲ生シタル者若クハ他ノ徴募區ヨリ入籍シタル者アルトキハ町村長之ヲ嶋司又ハ郡長ニ報告ス可シ但検査後抽籤前ニ係ルモノハ嶋司又ハ郡長ヲ經テ旅管徴兵官ニ報告ス可シ  
市ニ在テ検査名簿進達後抽籤前前項ニ當ル者ハ市長之ヲ旅管徴兵官ニ報告ス可シ

新兵入營前及豫備徴員ノ名簿ニ關スル異動轉入籍ヲ除クハ市町村長ヨリ監視區長ニ通知ス可シ

第二十九條 検査後抽籤前徴募區外ニ轉籍スル者アルトキハ嶋司郡市長ヨリ検査名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ嶋司又ハ郡市長ニ通知ス可シ  
其異動轉籍地ノ抽籤後ニ係ルトキハ次年ニ於テ徴集ス

第三十條 徴兵令第十八條第十九條第二十條及第二十一條ニ當リ徴集延期若クハ徴集猶豫中名簿ニ關スル異動ヲ生スルトキハ島司郡市ニ於テ其名簿ニ訂正ヲ加フヘシ但郡長又ハ島嶼ニ在テハ町村長其異動ヲ島司又ハ郡

第三十一條

(明治三十二年五月二日新瀨縣問合同月廿四日陸軍省總務局同答) 寄留地應徵者ノ内令第二十條ノ事故ヲ生シ延期願出スル者アルトキハ其願書ハ寄留地ノ郡市役所ニ於テ取扱フヘシ

長ニ報告ス可シ  
他ノ徵募區ニ轉籍スル者ハ島司郡市長ヨリ徵集延期名簿若クハ徵集猶豫名簿ヲ添ヘ轉籍地ノ島司又ハ郡市長ニ通知ス可シ

第三十一條 徵兵令第二十六條ニ依リ他ノ徵募區ニ於テ徵集ニ應スヘキ者ニシテ同令第十八條第十九條第二十條及第二十一條ニ當リ徵集延期若クハ徵集猶豫ト爲リ延期若クハ猶豫中本籍ニ復歸シ又ハ他ノ徵集區ニ寄留替ヲ爲シ更ニ其地ニ於テ徵集ニ應シ難キ旨一月三十一日迄ニ願出ルルハ島司郡市長之ヲ許可スルコトヲ得  
島司郡市長其願ヲ許可シタルトキハ徵集延期名簿若クハ徵集猶豫名簿ヲ添ヘ新住地ノ島司又ハ郡市長ニ通知スヘシ但寄留替ノ者ハ本籍ノ島司郡市長ニモ通知ス可シ

第三十二條 徵兵令第二十五條ノ届出期限後條例第七十一條ニ當ル者アルトキハ町村長ハ戶籍ニ基キ壯丁名簿ヲ作り島司又ハ郡市長ニ差出スヘシ  
市ニ在テハ市長壯丁名簿ヲ作り大隊區徵兵署可ハ旅管徵兵署ニ提出ス可シ  
第三十三條 新兵入營ノ期ニ先タチ大隊區司令官ニ於テ入營地若クハ近衛海軍新兵集合地ニ到ル日數ヲ量リ召集ノ場所及日時ヲ定メ島司又ハ郡市長及町村長ヲ經テ之ヲ各自ニ達スヘシ  
第三十四條 條例第四十八條第二項ノ近衛海軍新兵受領委員ハ左ノ如シ

新兵五人以上五十人迄

新兵五十一人以上百五十人迄

新兵百五十一人以上三百人迄

新兵三百人以上

第三十五條 條例第四十八條第二項ノ近衛、海軍新兵集合地ハ左ノ如シ

第一師管ハ東京、横須賀

第二師管ハ仙臺、白河

第三師管ハ四日市、沼津

第四師管ハ神戸

第五師管ハ廣島、吳、丸龜

第六師管ハ長崎、佐世保、大分

第三十六條 近衛、海軍新兵入營ノ期ニ先タチ近衛及鎮守府ニ於テ新兵ノ集合地ヨリ入營地ニ到ル日數ヲ量リ集合地到着ノ日割ヲ定メ豫メ之ヲ各師團司令部ニ通牒スヘシ

第三十七條 條例第四十九條ノ入營延期願濟ノ者其他事故不參ノモノアルトキハ新兵引率ノ大隊區副官若クハ書記ヨリ各陸長又ハ近衛、海軍隊兵受領委員ニ其由ヲ通知スヘシ

下士若クハ上等兵以下之ニ徵フ一名兵卒一名乃至三名

中少尉以下之ニ徵フ一名下士若クハ上等兵一名乃至二名兵卒四名乃至六名

中少尉一名下士若クハ上等兵二名乃至三名兵卒八名乃至十名

大尉一名中少尉一名下士若クハ上等兵三名乃至五名兵卒十名乃至十五名

第三十八條 條例第五十一條ニ依リ豫備徵員ヲ以テ新兵ノ缺員ヲ補フニハ大隊區司令官ニ於テ其取扱ヲ爲スヘシ

第三十九條 徵兵令第二十七條ニ依リ翌年同ト爲リタルモノハ其年ノ新兵同時ニ入營セシムヘシ但本條ノ人員ハ其年ノ新兵所要人員ニ加ハサルモノトス

第四十條 新兵入營前癘疾又ハ不具トナリ永久兵役ニ堪ヘ難キ者ト認メタルモノアルトキハ其診斷書ヲ添ヘ大隊區司令官又ハ警備隊司令官ヨリ旅團長ニ具申スヘシ

第四十一條 條例第五十四條及本則第二十八條第三項ニ當ル新兵ノ異動ハ大隊區司令官ヨリ旅團長ニ報告スヘシ但新兵名簿送致後ニ在テハ旅團長ヨリ各隊長又ハ近衛都督若クハ鎮守府司令長官ニ通牒ス可シ

第四十二條 新兵入營前他ノ師管ニ轉籍シ隊籍ヲ變更スヘキ者アルトキハ本人名簿ヲ添ヘ旅團長ヨリ之ヲ轉籍地ノ旅團長ニ通牒ス可シ

第四十三條 新兵豫備徵員ニシテ轉籍シタル者ノ新兵證書豫備集員證書ハ總テ轉籍地ノ大隊區司令官ニ於テ訂正ス可シ

第四十四條 新證書豫備徵員證書國民兵證書及兵役證書ヲ失ヒ又ハ損傷シタル者ハ新ニ渡方ヲ島司又ハ郡市長ニ請求ス可シ

(附錄様式畧之)

○徵兵検査規則 明治廿二年三月 陸軍省令第二號

陸軍醫官徵兵検査規則ヲ廢シ徵兵検査規則左ノ通定ム

徵兵検査規則

第一條 身体検査ノ要ハ合格不合格トテ區別スルニ在リ合格ハ身体強健精神異常ナクシテ兵役ニ堪フヘキモノ不合格ハ疾病或ハ畸形ニシテ之ニ堪フヘカラサルモノトス而シテ此検査ハ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

第二條 現ニ傷痍疾病ニ罹ルモ輕症ニシテ服役シ得ヘキハ合格トス

第三條 身幹ハ左ノ如ク定ムト雖モ所要ノ人員不足スル時ニ當リテハ臨時遞減スルコトアルヘシ

砲兵、工兵 五尺五寸以上

歩兵、騎兵、輜重兵 五尺三寸以上

輜重輸卒 五尺二寸以上

陸軍職工 五尺以上

海軍水兵、火夫、看病夫 五尺三寸以上

海軍木工、鍛冶、廚夫 五尺二寸以上

警備隊ノ歩兵砲兵ハ以上ノ定尺ヨリ各二寸以內減縮スルコトヲ得

第四條 兵役ニ堪フヘカラサル疾病畸形ハ大約左ノ如シ

- 一 全身發育不全
- 二 骨、筋系瘦弱甚シキモノ
- 三 脂肪過多ニシテ運動ニ妨アルモノ
- 四 慢性腺腫、慢性潰瘍
- 五 軟部ノ惡性若クハ著大ナル腫瘍、潰瘍
- 六 骨慢性炎、骨潰瘍、骨壞疽、骨腫瘍、骨軟化、尙僂病
- 七 癩痕廣大ナルモノ或ハ骨ト癒着シテ運動ニ妨アルモノ
- 八 象皮腫、癩
- 九 出血病、白血病
- 十 動脈瘤、靜脈瘤及著大ナル脈腫
- 十一 慢性關節僂麻質斯慢性痛風ニシテ著シキ器質ノ變化アルモノ
- 十二 癩癩、舞蹈病
- 十三 脊髓勞、進行性筋瘦小
- 十四 白痴、癲狂
- 十五 頭部畸形ノ著大ナルモノ
- 十六 眼瞼ノ内反外反及淚癭
- 十七 角膜虹彩膜ノ疾患ニシテ視力ニ妨アルモノ
- 十八 斜視ニシテ一眼直視スルトキ他眼ノ角膜縁内外眦ニ達スルモノ

- 十九 陸軍兵ニ在テハ近視ニシテ視力二分ノ一以下ニ至ルモノ  
海軍兵ニ在テハ近視
- 二十 陸軍兵ニ在テハ視力之弱二分ノ一以下ニ至ルモノ及夜盲  
海軍兵ニ在テハ視力之弱及夜盲
- 二十一 失明
- 二十二 耳殼缺亡、慢性重聽、聾
- 二十三 鼻畸形ノ著大ナルモノ
- 二十四 鼻腔、前頭竇、上顎洞ノ慢性潰瘍、腫瘍
- 二十五 口内惡性潰瘍、唇頰癒著、口吻狹窄
- 二十六 唇又ハ齒牙ノ疾病缺損ニシテ咀嚼ニ妨アルモノ
- 二十七 口蓋ノ破裂、缺損、穿孔
- 二十八 舌若クハ唾腺ノ腫瘍、肥大、缺損又ハ扁桃腺ノ腫瘍、肥大ニシテ其著大ナルモノ及唾癭
- 二十九 啞、聾啞
- 三十 喉頭及氣管ノ畸形並ニ其慢性病
- 三十一 食道狹窄
- 三十二 斜頸及脊梁ノ畸形ニシテ運動ニ妨アルモノ
- 三十三 胸廓畸形ノ著大ナルモノ

- 三十四 肺、胸膜ノ慢性病
- 三十五 心臟、心嚢ノ慢性病
- 三十六 腋臭及足汗ノ惡臭甚シキモノ
- 三十七 骨盤畸形ノ著大ナルモノ
- 三十八 歇兒尼亞
- 三十九 慢性脱肛、痔瘻又ハ著大ノ痔核ニシテ定期性出血、膿潰等アルモノ
- 四十 尿瘻、尿石及尿道畸形
- 四十一 罌丸、副罌丸ノ慢性炎肥大及罌丸腹輪中ニ在テ疼痛ヲ發スルコトアルモノ
- 四十二 四肢ノ麻痺、削瘦、短縮、彎曲、假關節
- 四十三 關節畸形
- 四十四 脱臼若クハ習癖脱臼又ハ關節痿痺
- 四十五 拇指若クハ示指又ハ他ノ三指ノ爪甲全缺
- 四十六 陸軍兵ニ在テハ剩指又ハ指ノ癒著及小指末節ヲ除クノ他指節ノ強剛
- 四十七 海軍兵ニ在テハ剩指又ハ指ノ癒著及指節ノ強剛
- 陸軍兵ニ在テハ環指若クハ小指ノ末節ヲ除クノ他一節以上又ハ

- 環指小指共ニ一節以上ノ缺損
  - 海軍兵ニ在テハ諸指一節以上ノ缺損
  - 四十八 足ノ畸形
  - 四十九 陸軍兵ニ在テハ大趾ハ一節以上他趾ハ二趾以上ニシテ一節以上ノ缺損
  - 海軍兵ニ在テハ諸趾一節以上ノ缺損
  - 五十 剩趾又ハ趾ノ著大ナル彎曲
  - 第五條 前條各項ノ疾病畸形ト雖モ其輕症ニシテ服役シ得ヘキモノハ合格トシ爾餘ノ疾病畸形ニシテ服役シ得ヘガラサルモノト認ムルトキハ不合格トス
- 徵兵旅費定則 明治廿年十二月 大藏省令第十七號
- 明治十八年七月當省達第四十二號徵兵旅費定則左ノ通改正ス
- 徵兵旅費定則
- 第一條 徵兵旅費ハ檢査及入營ノ二種トシ片道三里以上ノ旅行ヨリ之ヲ支給ス
- 檢査旅費ハ檢丁、呼出ニ係ル檢丁ノ父兄、廢疾不具者ニ同伴シタル保護人及抽籤人檢査所又ハ抽籤場ヘ往復ノ旅費トス

入營旅費ハ新兵入營ノ旅費トス

第二條 検査旅費ハ一里ニ付金貳錢五厘入營旅費ハ同金四錢ノ割ヲ以テ支給ス但一里未滿ノ端里數ハ切捨トス

官ノ都合ニヨリ特ニ滞在ヲ命シタルトキ検査旅費ニ在テハ金貳拾貳錢入營旅費ニ在テハ金貳拾八錢ノ滞在日當ヲ支給ス

官ノ都合ニヨリ特ニ滞在ヲ命シタルニアラスト雖モ川留雪間ニシテ途中ニ滞在スルトキ其他戸長ノ證明書ヲ添ヘ請求スルトキハ滞在日當ヲ支給スルコトヲ得

第三條 片道三里未滿ノ旅行ト雖モ島嶼ニ住居シ渡航ニアラサレハ至リ營キトキハ渡航賃ノ實費ヲ支給スルコトヲ得

片道三里未滿ノ旅行ト雖モ官ノ都合ニヨリ特ニ宿泊ヲ命シタルトキ検査旅費ニ在テハ金拾五錢入營旅費ニ在テハ金貳拾錢ノ宿泊料ヲ支給ス

第四條 片道三里以上ノ旅行ニシテ島嶼ニ住居シ渡航ニアラサレハ至リ難キモノ若クハ地勢上渡航ハ瀛車乗用ヲ便トスルトキハ第二條ニヨラス其實費(瀛車瀛船ハ下等貨タルヘシ)

本條ノ場合ニ於テハ泊敷ニ應シテ前條ノ宿泊料ヲ給ス其陸行(徒步)ト相跨ル日亦之ニ準シ尙陸路里數ニ應シテ別ニ第二條ノ旅費ヲ支給ス

第五條 新兵入營ノ旅行ハ一日十里詰トシ若シ各兵集合上ノ都合ニヨリ其

見積行程ヨリ延着セシメタルトキハ増日數ニ應シ滞在日當ノ額ヲ支給ス

第六條 檢丁若クハ呼出ニ係ル檢丁ノ父兄癘疾不具ニシテ歩行スル能ハサル者ハ第二條ノ外片道一里以上ヨリ一里ニ付金六錢ノ車駕賃ヲ支給ス但一里未滿ノ端數ハ切捨トス

第七條 新兵入營途中疾病ニヨリ歩行スル能ハスシテ車駕ヲ乗用シ又ハ滞在シタルトキハ附添吏員ノ證明書及醫師ノ診斷書ヲ添ヘ請求スルトキハ車駕賃ノ實費若クハ滞在日當ヲ支給スルコトヲ得

第八條 新兵ニ附添ヒ營所ニ到ル郡區書記若クハ戸長ノ旅費ハ内國旅費規則ニヨル

第九條 北海道廳長官府縣知事ノ見込ニヨリ本則中ノ給額ヲ減少スルハ適宜タルヘシ

○陸軍一年志願兵條例 明治廿二年二月 勅令第十四號

朕陸軍一年志願兵條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

陸軍一年志願兵條例

第一條 徵兵令第十一條ニ據リ一箇年間陸軍現役ヲ志願スル者ハ兵種及備戍地ヲ選ヒ服役スルコトヲ得但服役中ノ費用官給ヲ受クル者ハ此限ニ在ラス



第二條 一年志願兵ノ被服裝具彈藥武器及屬具ハ其所屬部隊ヨリ現品ヲ給シ其被服裝具費彈藥費武器及屬具修理費トシテ金六拾圓ヲ納メシム但服役滿期ノ際精算ヲ爲シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

武器及屬具ハ服役滿期ノトキニ之ヲ返納セシム

第三條 騎兵トシテ服役スル者ハ馬匹及馬具ヲ貸與シ其馬匹ニ係ル一切ノ費用及馬具修理費トシテ第二條ノ納金ノ外金八拾圓ヲ納メシム但服役滿期ノ際精算シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第四條 一年志願兵日給ヲ給セサルモノトス

徵兵署檢査所往復旅費及入營退營旅費ハ一切自辨トス

第五條 一年志願兵ハ營外ニ居住シ通勤セシメ其居宅及食餌ノ費用ハ本人ノ自辨トス

若シ品行不正ノ事アルトキハ營内ニ居住セシメ食餌ハ該部隊ヨリ給シ其費用ヲ辨償セシム

第六條 身元貧困ニシテ費用ノ全部ヲ自辨スルコト能ハサル者ニハ左ノ區別ニ從ヒ官費ヲ以テ服役セシム

一 居宅及食餌ノ費用ノ外自辨シ能ハサル者ニハ一般ノ兵卒同様部隊ヨリ被服裝具彈藥武器及屬具ヲ給與ス

二 武器及屬具ノ修理費ノ外自辨シ能ハサル者ニハ一般ノ兵卒同様部隊ヨリ食餌被服裝具彈藥ヲ給與シ營内ニ居住セシム

第七條 官費ヲ以テ服役ヲ許ス可キ一年志願兵ノ人員ハ毎年陸軍大臣之ヲ定ム

第八條 官費ヲ以テ服役セシム可キ壯丁前條ノ定員ニ超過シタルトキハ年少ノ者ヨリ順次次年ニ回シ入隊セシムルコトアル可シ

第九條 一年志願兵タラント欲スル者ハ其願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ一月三十一日迄ニ嶋司又ハ郡市長ニ差出シ嶋司郡市長ハ本人身元資産ノ有無及犯罪ノ有無ヲ取調ヘ證明書ヲ作り之ヲ願書ニ添ヘ本人居住地所管ノ旅團長ニ差出ス可シ

一 戸主本人戸主ナシノ承認書

此承認書ハ其家族ノ承認書ニ依リ之ヲ承認スルコトヲ記スルモノトス

二 官立學校帝國大學及府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校卒業ノ者ハ前項ニ掲クル承認書ノ外該學校卒業證書

第十條 一年志願兵タラント欲スル者ニシテ一月三十一日迄ニ第九條第二項ノ學校ヲ卒業セサルモ其年ノ九月三十日迄ニ卒業ス可キ者ハ卒業證書ニ換フルニ學校長ノ證明書ヲ以テ願出ルコトヲ得但卒業シタルトキハ直

第十條  
 (明治二十一年三月四日帝國大學問合同月七日陸軍省總務局回答)

分科大學卒業ス  
ヘキ見込ヲ以テ一  
年志願兵ヲ出願シ  
置キタル者卒業試  
驗ノ成績ニ依リ學  
術優等大學院入學  
ヲ許可シタルハ  
其志願兵ノ出願取  
消ヲ請求シ大學院  
ニ入學セシムルコ  
トヲ得  
又一年志願兵ヲ出  
願シタルモノ病氣  
等ニテ卒業セサル  
モノモ右願取消ヲ  
許可ス

ニ卒業證書ヲ添へ旅團長ニ届出可シ

第十一條 第九條ノ志願兵中學術ノ試験ヲ受ク可キ者ハ其人名書ヲ旅團長ヨリ師團長ヲ經テ監軍ニ呈シ監軍ハ之ヲ將校學校監ニ下シ將校學校監ハ之ヲ陸軍將校生徒試験委員ニ下付ス

師團長ハ身體檢査ノ時日ヲ定メ府縣知事ニ通達シ志願者ヲ召集シ其地所  
在ノ軍醫ヲシテ身體檢査ヲ爲サシメ合格者ノ人名書ヲ陸軍將校生徒試験  
委員到着ノトキ交付ス

第十二條 陸軍將校生徒試験委員ハ志願者ノ身體檢査ニ合格シタル者ノ學  
術ヲ試験シ試験書ヲ旅團長ニ送付ス

第十三條 學術ノ試験ヲ受ク可キ者ノ試験及合格格例ハ其時々監軍之ヲ定  
メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十四條 旅團長ハ試験ノ成績ニ依リ及第落第ヲ定メ之ヲ本人ニ通知シ其  
及第者ニハ合セテ認定證書ヲ附與ス

第九條 第二項ノ卒業證書及第十條ノ證明書ヲ所持スル者ハ一般ノ徵兵  
ト同時ニ身體ノ檢査ヲ爲シ其合格者ニハ認定證書ヲ附與ス但第十條ノ證  
明書ヲ所持スル者ノ認定證書ハ同條但書ノ届出ヲ爲シタルトキ之ヲ附與  
スヘシ

第十五條 一年志願兵認定證書ヲ附與シタル人名書ハ旅團長ヨリ大隊區徵

兵官ニ送付ス可シ

第十六條 一年志願兵ノ入隊期日ハ毎年十二月一日トス

第十七條 一年志願兵認定證書ヲ受ケタル者ハ十一月三十日限り第二條第

三條第六條第二項ノ費用ヲ部隊ニ納ム可シ

第十八條 一年志願兵入隊シタルトキ若クハ次年回リト爲リタルトキハ本  
籍所管大隊區徵兵官ニ届出可シ

第十九條 一年志願兵入隊スルトキハ聯隊長獨立大隊ニ在テハ大隊長以下同シ之ヲ部下某中隊  
ニ編入シ該中隊長ヲシテ教育ニ任セシム

第二十條 一年志願兵軍事學ノ教授ハ聯隊長部下大尉若クハ中尉ノ内一名  
ヲシテ之ヲ掌ラシム

第二十一條 一年志願兵ノ教育及軍事學ノ教授ニ就テハ聯隊長其責ニ任ス  
ルモノトス

第二十二條 一年志願兵ノ勤務及服裝ハ一般ノ兵卒ト異ナルコトナシ但營  
中雜役ヲ免シ又被服ニ特別ノ徽章ヲ附ス

室内其他諸物品ノ掃除及馬匹馬具等掃拭ノ爲メ兵卒ヲ使役スルコトヲ得  
但馬匹馬具等ノ掃拭ヲ習得スル爲メニハ自ラ之ヲ爲スヲ要ス

第二十三條 一年志願兵中勤務ニ熟達シ且品行方正ニシテ豫備士官ノ教育  
ヲ授クルニ堪フ可キト認ムル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ六箇月ノ後上等兵

トナシ特別ノ教育ヲ授ケ下士ノ勤務ヲ爲サシム

第二十四條 上等兵ト爲シタル者ハ服役滿期ノ際聯隊長ハ一年志願兵終末試験委員ヲシテ學科及實地上ノ試験ヲ爲サシメ之ニ及第シタル者ハ其成績ヲ近衛都督又ハ師團長步兵ハ旅團長ヲ經テニ具狀シ認可ヲ受ケ終末試験及第證書ヲ授與シ二等軍曹ニ任シ豫備役ニ編入ス  
終末試験ニ落第シタル者ハ二等軍曹ニ任シ若クハ下士適任證書ヲ附與シ豫備役ニ編入ス

第二十五條 醫學藥學又ハ理財學若クハ商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ步兵隊ニ獸醫學卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ於テ前半年間隊列勤務ヲ爲シ後半年ノ初ニ於テ志願軍吏生志願軍醫學生志願藥劑生又ハ志願獸醫學生ト爲リ各専門ノ勤務ヲ練習スルコトヲ得志望ノ者ハ入隊ノ際學校ノ卒業證書ヲ以テ其由ヲ申立ヘシ  
獸醫學卒業證書ヲ所持シ志願獸醫學生タラントヲ志望スル者ハ第三條ノ納金ヲ爲スニ及ハス

第二十六條 志願軍吏生志願軍醫學生志願藥劑生及志願獸醫學生ヲ命スルニハ近衛又ハ師團監督部長若クハ軍醫長獸醫長ヨリ近衛都督又ハ師團長ノ認可ヲ請フヘシ

第二十七條 志願軍吏生志願軍醫學生志願藥劑生及志願獸醫學生ハ曹長同等ノ取扱ヲ受クルモノトス

第二十八條 志願軍吏生志願軍醫學生志願藥劑生及志願獸醫學生ト爲シタル者ハ服役滿期ノ際近衛又ハ師團監督部長若クハ軍醫長若クハ獸醫長一年志願兵終末試験委員ヲシテ實地ノ試験ヲ爲サシメ之ニ及第シタル者ハ其成績ヲ近衛監督又ハ師團長ニ具狀シ認可ヲ受ケ終末試験及第證書ヲ授與シ豫備役ニ編入ス  
終末試験ニ落第シタル者ハ曹長若クハ軍曹相當官ニ任シ豫備役ニ編入ス

第二十九條 近衛都督又ハ師團長ハ一年志願兵終末試験委員ヲ組織シ及其試験ノ方法ヲ定ム

第三十條 一年志願兵認定證書ヲ得タル者正當ノ事由ナクシテ其年ノ十二月一日ニ入隊セサルトキハ一年志願兵ノ資格ヲ失フモノトス

第三十一條 戰時若クハ事變ニ際スルトキハ一年志願兵ト雖モ一般ノ兵卒ト同シク服役セシム

附則

第三十二條 明治二十二年ニ限り第九條ノ願出期限ハ三月十五日迄トス

第三十三條 第二條第三條ノ納金額ニ變更ヲ要スルトキハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

○試補及判任官見習一年志願兵服役方明治廿三年三月閣令第十一號

試補及判任官見習ニシテ一年志願兵トナル者ハ在職ノ儘服役スルコトヲ得但服役時日ハ實務練習ノ期限ニ算入セス有給者ニハ俸給ヲ給セサルモノトス

○陸軍一年志願兵條例施行細則明治二十二年三月陸軍省令第十三號

陸軍一年志願兵條例施行細則左ノ通定ム

陸軍一年志願兵條例施行細則

- 第一條 條例第二條ノ所屬部隊ヨリ給スル被服裝具ノ現品ハ左ノ如シ
  - 一 第一種帽 前立共
  - 二 第二種帽
  - 三 絨衣袴
  - 四 小倉衣袴
  - 五 夏衣袴 二著
  - 六 日覆
  - 七 外套

八 脚絆

九 第一種手牒

十 背蓋 屬具共

十一 飯盒

十二 水筒

第二條 條例第三條ノ馬匹ニ係ル一切ノ費用トシテ納メシムル費目ハ左ノ如シ

- 一 蓆秣寢蓆費
- 二 裝鐵別毛費
- 三 馬療費

第三條 居宅及食餌自辦ノ者行軍若クハ野外ニ於テ演習ヲ爲ストキハ部隊ヨリ食餌ヲ給シ實費ヲ以テ其代價ヲ辨償セシム

第四條 條例第六條第二項ノ武器及屬具ノ修理費ハ金九圓トス

第五條 條例第九條ノ願書及承認書ハ附錄第一第二第三第四樣式ニ依リ認メ本籍ノ島司又ハ郡市長ニ差出ス可シ

第六條 條例第九條ノ証明書ハ附錄第五第六樣式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第七條 條例第九條ノ卒業証書ハ其寫ヲ差出ス可シ

第八條 條例第十一條第二項ニ依リ師團長ハ身體檢査ノ時日ヲ定ムルト同

時ニ検査所設置ノ場所ヲ定メ府縣知事ニ通達シ府縣知事ハ其時日及場所ヲ管内ニ告示ス可シ

第九條 學術ノ試験ヲ受ク可キ者ニシテ身體ノ検査ヲ爲シタル者ハ陸軍醫官其合格ト不合格トヲ判定シ且不合格ノ者二十歳未満ノ者ヲ除クハ永久服役ニ堪ヘ難キ者ト一時服役ニ堪ヘ難キ者トヲ區別シ其人名書ニ體格検査表ヲ添ヘ師團長ニ差出シ師團長ハ之ヲ本人居住地ノ旅管徵兵官ニ送付ス可シ

第十條 旅管徵兵官ハ前條ノ書類ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ免役ノ處分ヲ爲シ一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ體格検査表ヲ大隊區徵兵官ニ送付シ大隊區徵兵官ハ該検査表ニ依リ徵集延期ノ處分ヲ爲ス可シ其寄留ノ者ニ在テハ其旨ヲ本籍地ノ旅管徵兵官又ハ大隊區徵兵官ニ通知ス可シ

第十一條 條例第十一條第二項及第十三條ノ身體検査並學術試験ニ出頭セサル者ハ條例第九條ノ願書ハ無効ニ屬ス

第十二條 條例第十四條ノ一年志願兵認定証書ハ附錄第七様式ニ依リ作ル可シ

第十三條 官費ヲ以テ服役セシムヘキ者ニハ旅團長附錄第八様式ニ依リ官費服役許可狀ヲ作り本人ニ附與ス可シ

條例第八條ニ依リ次年同シト爲スヘキ者ハ許可狀ノ裏面ニ其事由ヲ記載

スヘシ

第十四條 官費ヲ以テ服役セシム可キ者ヲ各隊ニ配付スルニ方リ理財學若クハ商業學卒業証書ヲ所持スル者ハ近衛又ハ師團監督部所在地ノ歩兵隊ニ配付スヘシ可シ

第十五條 條例第十四條ニ依リ身體ノ検査ヲ受ク可キ者ノ氏名ハ旅團長ヨリ大隊區司令官ニ達シ大隊區司令官ハ之ヲ囑司又ハ郡市長ニ通達シ島司郡市長ハ検査ノ時日及其場所ヲ管内ニ告示ス可シ

大隊區徵兵署又ハ検査所ニ出頭シ難キ事故アル者ハ願ニ依リ他ノ大隊區徵兵署若クハ検査所若クハ旅管徵兵署ニ於テ身體ノ検査ヲ受クルコトヲ得但許可ヲ受ケスシテ出頭セサル者ハ條例第九條ノ願書ハ無効ニ屬ス前項但書ニ當ル者ニシテ寄留ノ者ハ大隊區司令官ヨリ本籍地ノ大隊區徵兵官ニ通知ス可シ

第十六條 大隊區徵兵署若クハ検査所ニ於テ身體ノ検査ヲ爲シタル者ハ大隊區司令官合格不合格ヲ區別シ検査報告書ヲ作り之ヲ旅團長ニ差出ス可シ

身體ノ検査ニ合格セサル者二十歳未満ノ者ヲ除クニシテ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ旅管徵兵官免役ノ處分ヲ爲シ其一時服役ニ堪ヘ難キ者ハ大隊區徵兵官徵集延期ノ處分ヲ爲ス可シ但寄留ノ者ニ在テハ其旨ヲ本籍地ノ旅管徵兵官又ハ

大隊區徵兵官ニ通知ス可シ

第十七條 身體ノ検査ニ由リ本人ノ望ノ兵種ニ適セサルモ他ノ兵種ニ適ス可キ者ハ更ニ他ノ兵種ヲ志願スルコトヲ得

第十八條 一年志願兵認定書ヲ附與シタル者ハ旅團長ヨリ自費服役官費服役次年回シ等ヲ區別シ其人名書ニ體格検査表ヲ添ヘ當該聯隊長獨立大隊長ニ在テハ大隊長以下同シニ送付シ又其人員ヲ師團長ニ報告シ師團長ハ之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第十九條 一年志願兵入隊前禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ死亡シタルトキハ其親族ヨリ旅團長ニ届出スヘシ

第二十條 一年志願兵認定証書ヲ所持スル者疾病其他止テ得サル事故ヲ生シ十二月一日ニ入隊シ難キトキハ証明書類ヲ添ヘ入隊ノ延期ヲ旅團長ニ願出スヘシ

其事故十二月二十日迄ニ止マステ入隊セサル者ハ旅團長之ヲ次年回シト爲シ聯隊長及本人ニ通知スヘシ

第二十一條 一年志願兵認定証書ヲ所持スル者ニシテ十二月一日ニ入隊セサル者アルトキハ聯隊長ヨリ其人名ヲ旅團長ニ通知スヘシ

第二十二條 條例第三十條及本則第十九條第二十條第二項ニ當ル者官費服役者ナルトキハ旅團長ハ條例第八條ニ依リ次年回シト爲シタル者ヲ探上

ク十二月三十一日迄ニ入隊セシムルコトヲ得但入隊ヲ命シタルトキハ其人名ヲ聯隊長ニ通知スヘシ

第二十三條 一年志願兵ハ入隊ノ當日讀法式及宣誓式ヲ行フモノトス

第二十四條 一年志願兵ニ授クル特別教育ノ課程ハ別ニ之ヲ定ム

第二十五條 條例第二十五條ニ依リ志願軍吏生、志願軍醫士、志願藥劑生、志願獸醫士ト爲リ各専門ノ勤務練習ヲ志望スル者ハ該隊長ヨリ各自ノ卒業證書寫ヲ添ヘ近衛又ハ師團監督部長若クハ軍醫長若クハ獸醫長ニ通牒シ監督部長軍醫長獸醫長ハ近衛都督又ハ師團長ノ認可ヲ受ケ後半ノ初ニ於テ該隊長ヲ經由シ之ヲ命ス可シ

第二十六條 條例第二十五條ニ依リ志願軍吏生ト爲シタル者ハ近衛又ハ師團監督部ニ志願藥劑生ト爲シタル者ハ衛戍病院ニ派遣シ勤務ヲ練習セシム

第二十七條 志願軍吏生ノ教育ハ近衛又ハ師團監督部長志願軍醫士ノ教育ハ該隊二等軍醫正志願藥劑生ノ教育ハ衛戍病院長志願獸醫士ノ教育ハ該隊上級ノ獸醫各其責ニ任スルモノトス

第二十八條 條例第三十二條及第二十六條ニ依リ上等兵及志願軍吏生志願軍醫士志願藥劑生志願獸醫士ト爲シタル者ハ將校集會所ニ於テ將校ト會食セシムルコトヲ得

第二十九條 志願軍吏生、志願軍醫生、志願藥劑生、志願獸醫生ト爲シタル者ハ武器及屬具ヲ返納セシメ更ニ徒卒刀ヲ給スヘシ

第三十條 一年志願兵滿期ニ先タテ近衛都督又ハ師團長ハ條例第二十九條ノ終末試験委員ヲ組織スヘシ

第三十一條 終末試験委員ハ各隊各部毎ニ上長官一名士官若干名ヲ以テ組織スヘシ但獸醫部ニ在テハ士官若干名ヲ以テ組織スヘシ

第三十二條 條例第二十四條第一項第二十八條第一項ニ依リ豫備役ニ編入スヘキモノハ該隊ヨリ其兵籍ヲ本人居住地ノ大隊區司令部ヘ送致シ其他ハ本籍地ノ大隊區司令部ヘ送致スヘシ

第三十三條 條例第二十四條及第二十八條ノ一年志願兵終末試験及第證書ハ附録第九樣式ニ依リ各部各隊ニ於テ作ル可シ

第三十四條 一年志願兵中豫備士官ノ教育ヲ授クルニ堪ヘスト認ムル者ハ下士ト爲スノ教育ヲ授ケ適任ノ者ハ服役滿期ノ際上等兵ト爲シ下士適任證書ヲ附與シ豫備役ニ編入ス

第三十五條 服役中ノ費用自辨ノ者ハ隊後禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ疾病傷痍ニ依リ現役ヲ免シ若クハ死亡シタルトキハ實費ヲ精算シ殘金ヲ還付ス

第一樣式

一年志願兵服役願

私儀徵兵令第十一條ニ依リ服役中ノ費用全部ヲ自辨シ何兵何聯「大」隊又ハ何聯「大」隊ニ於テ一箇年間現役ニ服シ度志願ニ候間學ノ試験ヲ受ク可キ者ハ(學術師試驗ヲ上)ノ七字ヲ記入ス可シ御認可相成度別紙某學校卒業證(某學校長ノ證明書)戶主(家族)ノ承認書相添此段奉願候也

年 月 日

府(縣)郡(市)町(村)番地住

府(縣)郡(市)町(村)番地寄留

華(士)族(平民)

氏 名 印

年 月 日 生

旅團長 爵氏 名 殿

近衛隊志願ノ者ハ本文何兵ノ上ニ近衛ノ二字ヲ記入ス可シ

第二樣式

一年志願兵官費服役願

私儀徵兵令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服シ度志願ニ候處服役中ノ費用全部自辨ス可キ資力無之候ニ付居室及食餌(武器及

屬具修理費)ヲ自辨仕候間學術試驗ヲ受クヘキモノハ學術  
御試驗ノ上ノ七字ヲ記入ス可シ其他ハ官費ヲ  
以テ服役ノ儀御認可相成度別紙某學校卒業證書(某學校長ノ證明  
書)戶主(家族)ノ承認書相添此段奉願候也

年月日

府(縣)郡(市)町(村)番地住

府(縣)郡(市)町(村)番地寄留

華(土)族(平民)

氏名 印

年月日生

族團長 爵氏名 殿

第三樣式

一年志願兵服役承認書

氏名

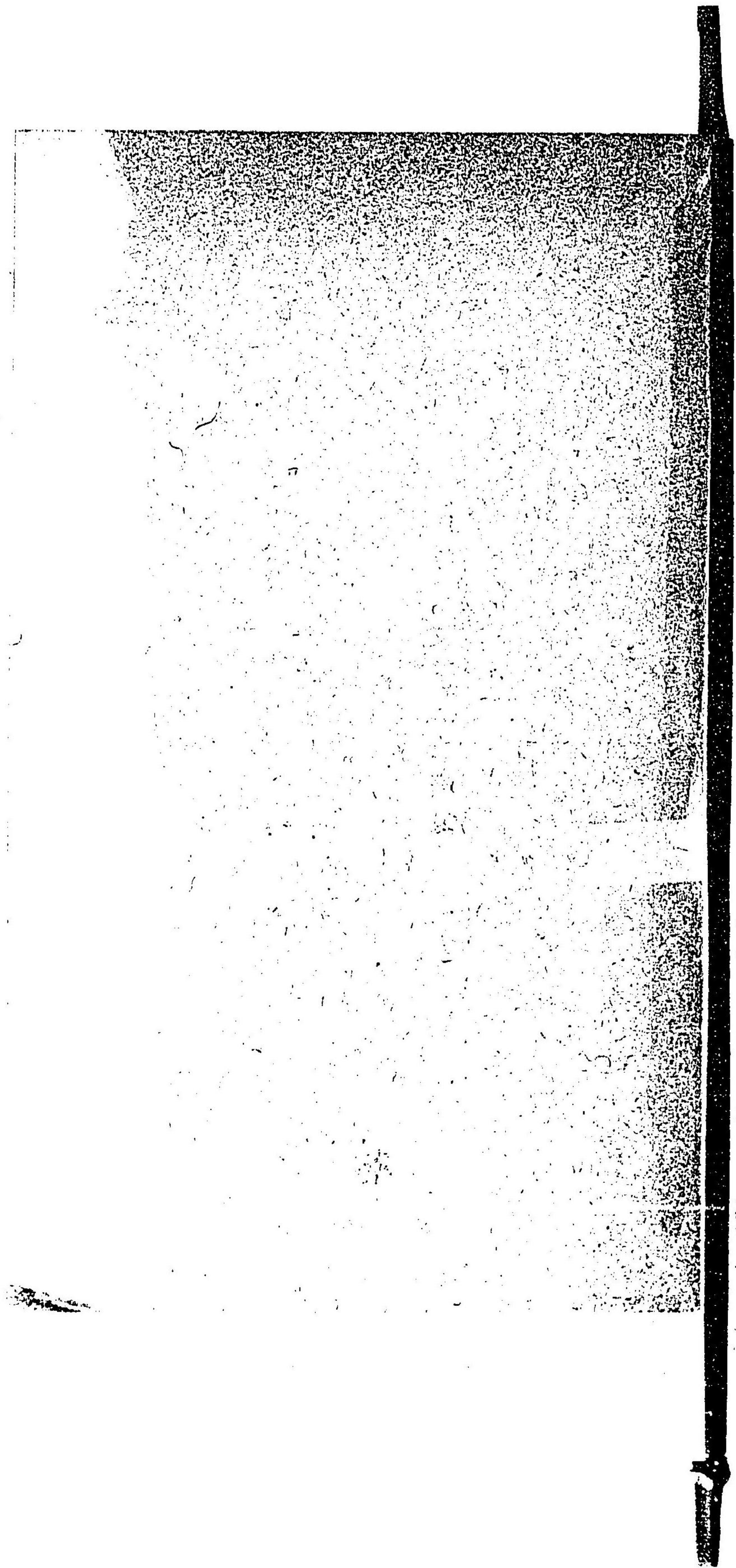
右私長男(孫)ニテ今般一箇年間陸軍現役ニ服シ度志願ニ候處服役  
中ノ費用金何圓無相違上納可致候也

年月日



欠

MISSING



477A-83

